新京日日新聞
夕刊
七月4日（水）
本紙 一部五錢 一ヶ月一圓
定價 郵税 一ヶ月十五錢
廣告 普通一行 一圓三十錢
料金 特別 同 二圓五十錢
發行所 新京永樂町四ノ一 新京日日新聞社 電話三二二五・三三〇〇
發行人 十河榮忠
編輯人 松本勇
印刷人 谷啓二郎

國民政府が公布せる 新輸入關税率

從價税は％從量税は斤單位

【上海三日發國通】國民政府の新輸入税則は二日夜公布、三日より實施されたが、新税則は舊税則と同樣十六類より成り日本關係品としては綿布類が從價五パーセントに引き下げられたのを始めとして海産物が一般的に減率されたのが目につく、砂糖、石炭、皮革、セメントは變らず、建築材料は總じて引き上げられた砂糖は本月中旬追加發表の新税率に於て減率と傳へられるが總觀するに今回の改訂税率は日本品に有利で外國品にとつては相當の打擊である、新税率中日本及び滿洲國關係品の主なるものを摘記すれば左の如し、課税形式（即ち從價又は從量）新税率、從價税はパーセント、從量税は斤單位である、舊税率番號三一迄は變更なく

△三二、ポプリン（晒又は染色）一米につき〇、一
△四〇、模様付綾綿布、一米につき〇、〇五
△五四、綿フランネル一米につき〇、〇四四
△六三、綿サージ、糸染物一米につき〇、一〇
△六四、模造ポプリン、糸染物一米につき〇、〇八三
△六六、手織又は綾織の糸染物フランネル
イ、巾八二センチ以下一米につき〇、〇四四パーセント
ロ、巾八二糎以上九二糎以下のもの、一米につき〇〇五四
△一二二、列記されざる毛織物
イ、一平方米重量二百瓦以下のもの百瓩につき二〇〇
ロ、一平方米二百瓦以上四百瓦以上四百瓦以下、同じく二〇五
△一八五、銑鐵、百瓩につき〇、七〇
△二六一、掛時計及懷中時計
イ、完成品　從價三〇
ロ、部分品　同　二〇
△二六三、電氣器具材料
イ、クリートインシュレーター、ヒューズ、スキッチ及スキッチボート　從價二五
ロ、コード、電線及其他同二〇
△二七五、あはび
イ、バラ荷百瓩につき四二
ロ、罐入り百瓩につき一八
△二七六、なまこ
イ、黒物（とげつき）百瓩につき四三
ロ、黒物（とげなし）百瓩につき三〇
△二七八、四〇
△二九一、刻み昆布百瓩につき一、七〇
△二九三、長昆布百瓩につき一、三〇
△三三四、列記されざる食料品、從價三〇
△三三八、大麥、そば、とうもろこし、燕麥裸麥その他雜糧、從價一五
△三三五、大豆、えんどう豆百瓩につき一、八〇
△三六二、入蔘百瓩につき三〇
△四四〇、硫酸アムモニア、百瓩につき一、二〇
△四四四、漂白粉百瓩につき一五
△四五二、殺蟲劑及消毒劑百瓩につき二、五
△五八一、木材堅きもの百瓩につき一〇、敵きもの一立方米につき二
△六〇三、石炭
イ、無煙炭一米噸につき二、八〇
ロ、有煙炭一米噸につき一、八〇

日本に好意的な 税率改訂 横竹商務官語る

【上海三日發國通】改訂輸入税率は既報の如く三日より實施されたが、日本品輸入の大宗たる砂糖、人絹、セメント石炭がそのまゝ据置かれ、又建築材料、特に陶磁器類が引上げられたのは聊か不滿であるが、砂糖、人絹は近く追加税率の發表で減率される筈であり、一面綿布類、海産物等の如く相當の引下げとなつてゐるものもあるから、總括的に見て今回の税率改訂は、日本品に對して寧ろ好意的に考慮されて居ると見る可きである、之れに就て横竹商務官は次の如く語る

今回の税率改訂は大体關税增收及産業保護の目的から行はれたもので、全般的には引上げと見る可きだが、日本品に對しては寧ろ好意的の態度が現れて居るので此點政府當局の意のある所も相當酌む可き必要があると思ふと同時に、中國政府當局が從來の抗日的態度を漸次緩和する一方、英米尊重の弊を自覺して、これを今回の輸入税率の上に表現したものと觀られ、日支相互のため喜ぶ可き事と思ふ

北滿特産物

拉賓線の利用漸く顯著

六月下旬に於ける北滿特産物出廻噸數は別項の如く二萬一千キロトンの增加を示してゐるがこれは四月二日松花江航行開始以來漸次活況を呈した出廻りが六月下旬頃より最盛期となつた關係に依るもので現在河豆の入津續々として行はれ一日六艘、三千・六百キロトン平均の着埠頭を見てゐるが陸上作業能力これに伴はず繫留を續けてゐる有樣である現在の北滿在貨は各方面の情報を蒐集するに廿八萬六千餘キロトンと見られ陸上作業能力を完成する一方廿八萬六千餘キロトンの輸送に要する貨車九千五百車で二十八日より六十日間にて消化する輸送計畫を樹て既に特産物輸送のため百六十車を木材其の他のため十車を拉賓線に入り込ましめこれに應ずる京圖線にも亘十四車を動員して輸送に萬全を期す事となつた、尚北鐵の減少と拉賓線の激增は從來の北鐵經由が運賃高其の他のため殆んど全部が拉賓線經由となつたものと見られ注目されてゐる

△品種別

品種	數量
大豆	四八、三七七
其他の豆類	一、二八〇
高粱	一〇、四九一
玉蜀黍	二、〇一〇
小麥	九〇
穀物種子	七、八二一
豆油	二三七
豆粕	八八四
木材	六、七五五
軍需品	一〇、八〇五
其他	三三、三四二

北滿各地の 作柄概況

【ハルビン國通】滿鐵調査による西部線方面安達以東の夏至當日の作柄概況を見るに小麥は播種後發芽迄は適濕を得て順調に生育しつゝあつたが五月中旬より六月上旬に亘り降雨過多の爲め過濕に失し草丈短く穗孕期に入り又所に依つては赤銹病發生の徵があり懸念せられてゐるが、他の作物も小麥程の影響はなくも相當の被害を見込まれてゐる拉賓線方面五常以北の作柄を見るに小麥作を除き他は比較的充分の水分に惠まれ低地の沼地を除き他は順調な發育を遂げつゝあるので今後の天候最適なれば粟の五分減以外は平年作通りと見られてゐる、昨秋拉賓線開通後は皇軍の討匪と地方警備の完成と相俟つて沿線一帶の治安恢復により農民は安んじて農耕に精勵し得て耕作不能の個所少く作付け面積は殆んど前年同樣と見込まれてゐる
夏至當日に於ける各作物の室長收穫豫想高左の如し（單位糎）

△西部線方面
大豆　對靑山　七、九
　　　滿溝　八、一
　　　安達　七、六
收穫豫想高陌當り　一、一〇瓩
高粱　對靑山　一九、四
　　　滿溝　一八、九
　　　安達　一七、一
收穫豫想高陌當り　一、五二瓩
粟　　對靑山　一〇、五
　　　滿溝　一〇、九
　　　安達　九、一
收穫豫想高陌當り　一、一九五瓩（一割減）
包米　對靑山　一四、一
　　　滿溝　一五、八
　　　安達　一七、九
收穫豫想高陌當り　一、五〇六瓩
小麥　對靑山　四〇、一
　　　滿溝　三九、八
　　　安達　四一、〇
收穫豫想高陌當り　八八八瓩（一割減）
△拉賓線方面
大豆　拉林　一一、五
　　　五常　一三、九
收穫豫想高陌當り　一、二〇六瓩
高粱　拉林　二一、五
　　　五常　二三、一
粟　　拉林　一二、一
　　　五常　一四、五
收穫豫想高陌當り　一、一六三瓩
包米　拉林　一七、九
　　　五常　二〇、一
小麥　拉林　五一、九
　　　五常　五三、四

浙江、江蘇の旱魃 六十年來の大暑熱

【上海三日發國通】當地の炎暑は連日百度を超え、六十年來の酷暑と傳へられるが、浙江、江蘇一帶の農村は酷暑に加ふるに二ヶ月余に亘る旱魃のため、農作物は枯死し、又井水、河川涸渇のため交通杜絶、惡疫流行し非常な慘狀を呈してゐる、之に對し政府當局は手の施し樣もなく救濟も行つて居らず、農民等も目下不穩の模樣はないが、今後引

後繼内閣と 事業界農業界の意向

【東京國通】事業界では後繼内閣は齋藤内閣の方針を踏襲し、急激な變革なし、殊に一九三五、六年の危機を控へ軍需インフレ低金利政策繼續を信ずるが、增税を懸念して居る、これに對し農業界では農村對策の强化を希望し、其財源としての增税に賛成である

日銀週報

【東京國通】（單位千圓）

項目	金額
紙幣發行額	一、二三三、六三五
正貨準備	三七三、七五六
保證内譯	
公債	五〇、五六二
政府證券	九二、三八七
手形	二五〇、八九一

株界一齊に 活況を呈す

【東京國通】愈々内閣總辭職に決定するや今日迄政界不安を反映してゐた株界は、これを境に買もの續出して、株式市場は俄かに活況を呈するに至り、取引所問題で抑へられてゐる新東すらも百四十七圓臺に進んで前日大引けに比して三圓方高となり其他諸株も夫々高騰した

深雪、電 衝突事件 查問委員任命

【東京國通】驅逐艦「深雪」「電」の衝突事件の查問に就いては中央部に於て查問會を設置し愼重に調査する事となり三日左の通り海軍省より公表された

驅逐艦「深雪」及び「電」衝突事件查問會は海軍大臣に於て組織する事となり三日附左の通り委員長及び委員の任命を見たり

委員長　海軍大將　山本英輔
委員　海軍參議官
海身少將　中村龜三郎
同　日比野正治
以下十二名

……徒らに降雨なき場合は、實に重大なる社會問題を惹起するものと憂慮されてゐる

南部熱河地方に於る 經濟事情（二）

産業　本省の經濟狀況は奉天、吉林および黑龍江省等に比し著しく遲れてゐる、それは土地の磽質と交通の不便との二因に依るもので主要産業は依然農牧の範圍を出でないといふ幼稚な狀態である、即ち、農業狀態について見るに既耕地は約六百萬畝（一畝は日本の六畝）農作物は住民の主食料たる粟、高粱、玉蜀黍黍等を主とし大小麥、燕麥、蕎麥、大小豆等が之に次ぎ山頂の瘠土河邊の磽地に至るまで開墾してゐる狀態である、承德　灤平、隆化、豐寧等の縣下にはまゝ水稻の耕作が行はれてゐるが、耕作法は幼稚であり、作物の質は低劣で產額も僅少である、特殊農作物中最も著名なのは阿片であるとは夙に世上に紹介されたところである、けしの推定作付面積は約十五萬畝、阿片收獲高は約三萬貫、熱河全省產額の約三分の一を占めてゐる、其他葉煙草、藍、麻類等の農產物もあるが農家の副業としては地方により藥草の採集および作蠶、蜜峰等の飼養が行はれてゐる
牧畜に就て見るに元來蒙古唯一の生業として牛、馬、緬羊、山羊、騾、驢、駱駝等の飼養が行はれて、漢人の間にも之が飼育が盛に行はれてゐるがその飼養數については信據すべき數字がない
林業は園場および興隆は古來森林地として知られてゐたが園場は淸朝末葉頃から興隆は民國初年から濫伐され今や殆ど烏有に瀕してゐる狀態にあるので滿洲國は森林の保護および助長の策を講じつゝある
鑛業、省内には金鑛處々に散在し、特に灤河本支流沿岸には多くの砂金地がある、石炭の埋藏量も相當額を有する見込みであるが、多種鑛物と共に未だ孰れも精密な調査が出來てゐない
工業、都邑地においては燒鍋油坊、磨坊（製粉業）等の農產加工業、毛氈絨毯等の畜產加工業が行はれてゐるが孰れも經營極めて小規模にして生產額も少い

商業及び金融　省内における比較的有力な商業市場は承德、平泉、淩源、豐寧の四市であるが、大資本を擁するものは何處にも之を發見し得ない、省城たる承德について見るも去年末における滿人商家數は二百戸、資本總額三十九萬圓、右の内資本金一千圓以上一萬圓未滿のもの七十四戸、一萬圓以上のものは僅かに六戸に過ぎない、その賣上總額は約百九十七萬圓であつた、從來省内各縣城には熱河興業銀行の支店が設けられてゐた外、當舖（質店）等の庶民金融機關が存在してゐたが前記熱河興業銀行各地支店は滿洲國中央銀行接收と同時に多くは廢止され僅かに承德平泉兩地に中央銀行支店の設置を見たに過ぎない、當舖は湯玉麟時代の紙幣濫發即ち最高發行時には七千萬元に達し現銀一元に對し紙幣相場は二百元に暴落したといふ紙幣恐慌に遭遇した爲め殆んど倒產し現存するものは舊興業銀行の設置にかゝる興濟當一戸に過ぎない
叙上の狀況から推しても分るやうに金融狀態は概して圓滑を缺いでゐる、現在省内に流通してゐる紙幣額は滿洲國中央銀行の紙幣、即ち國幣約三百萬圓、朝鮮銀行券約五十萬圓に達し國幣の信用は益々增加し、治安の恢復、交通機關の發達、人口の增加と相俟つて人心は愈々安定し市況活潑を加へつゝある、承德においては本年に入り滿人商家約百二十戸、資本約二萬二千餘元の增加を見た如きその一證左である、尙ほ國道其他土木建設の地方繁榮に及ぼせる好影響も少くない

生命線を行く（上演上映）（二百十七）

國友雄吉（荒川芳三郎畫）

灘洲の兄

伸一は、間もなく歸つて行つた。
絕望した勝代は、その場に泣き伏したまゝもう、引留やうともしなかつた。
伸一の足音が、だん／＼戸外へ遠ざかつて行くほど、彼女の悲しみは、次第に、深まつて行くのであつた。
すると、それから、ホンの僅の間を置いて、また入口の戸が鳴つたので、勝代は、伸一が戻つて來て吳れたのでないかと思つた。
すると「御免なさい／＼」といふ案内を求める男の聲がした。
勝代は、チツと耳を傾けて聽いて居た。
すると、取次に出て行つた女中が間もなく這入つて來たので、勝代は、泣顏を見られないやうに、顏を背向けた。
「あの、小池さんとおつしやるお方が、お越しになりました――」と女中がいつた。
勝代は、「オヤ」と、思つたのである。
小池といふのは、彼女の姓である。
「同じ苗字の人だつたら、ひよつとして、滿洲の兄さんが來たのではないだらうか？」と、思つたのである。
着物の亂れを、直したりして出て來てみると、それはやつぱり兄の伊之助であつた。
伊之助は、マントを着て、トランクを提げた旅行姿で庭に立つてゐたが、勝代の姿を見ると、いかにも、なつかしさうに、
「いよう、御機嫌よろしう――」と、いつた。
「まあ兄さん。よくいらしたわねえ――」
やくざな兄でも、兄はやはり兄である。勝代もさすがに、なつかしさうに笑顏で迎へた。
「東京の變つたのにはまつたく驚いたね。わしなんぞは、まるでも う田舍者で、西も東も、わかりやしない。此の家を搜すのにも、どれほど骨を折つたか知れやしない」
トランクと、マントとを、傍の方へ片寄せて置いて、伊之助は、はどうも、えらい處へ、やつて來たぞ、はゝゝゝゝ」
「兄さん！　そんな氣樂な話ではないわよ――そして兄さんは、何時、こちらへいらしたの――？」
勝代は、話を、脇へ逸らした。
「着いたことは昨夜着いたのだが、ちやうど、眞夜中だつたので、そのまゝ、ステーションの近くで宿を取つて、旅の疲れを休めて來たのさ」
「何か要事が出來たの？　それとも、東京見物にでもいらしたの？」
「冗談ぢやないぜ。東京見物なんて、たとへ三日でも宜いから、そんな氣樂な身分になつて見たいよ」
「それでは、何か、心配なことでも出來たの？」
勝代の眉は、自づと濟んで行くのであつた。
「お察しの通り――氣の毒だけれど、また、おまへに、一ト苦勞しして貰はなきやならないんだよ。久し振で會つたおまへに、來る早々こんな話をするのは、いやなんだけれどなあ――」
急に打悄れた伊之助の肚の底から、溜息が漏れてきた。
座敷へ通つた。
それから、久方振りの、挨拶につゞいて、母親の話なぞ、一と通りの物語りがあつてから、
「氏家さんも、チチハルでお目に懸つた時分とは、すつかり變つておしまひなすつて、立派な紳士だね。實はね、たつたいま、此處の表でお目にかゝつたんだよ。いろいろおまへのお禮も言ひたかつたのだが、往來中では、と思つて遠慮したよ。それになんだか、むづかしい顏をして、さつさと行つておしまひなすつたんで、ツイ聲をかけることも出來なかつたしね」
「まあ、さうでしたの」
勝代は、その話になると、あまりハキ／＼しなかつた。
伊之助は、不圖思ひ付いたやうに、
「時に、おまへも變な顏をして、どうかしたんぢやないか。――おまへは泣き顏をして居るし、氏家さんは、怒つたやうな顏だつたし――はゝあ、痴話喧嘩だな。これ

海軍大將岡田啓介氏に 組閣の大命降下

重臣會議園公の奉答で

(東京國通至急報)後繼内閣組織について御下問を拜した西園寺公は四日朝上京午前九時四十六分參内重臣會議の後　天皇陛下に拜謁仰付られ後繼内閣の首班として岡田啓介大將が然るべき旨奉答したよつて岡田大將は午後二時參内組閣の大命を拜することゝなつた(號外再錄)

後繼内閣の首班　岡田啓介大將

岡田新首相語る

【東京國通至急報】宮中よりのお召しを拜した岡田大將は左の如く語つた

唯今お召しの電話を拜しました參内した後で齋藤首相と會見、とくと組閣方針を協議する考へでありますが組閣本部は未だ決つてゐません

新内閣海相下馬評

【東京國通】大角海相は辭任確實と觀られるので後任海相とし部内統制の必要上より末次大將が有力視され、其他としては永野修身、中村良三、小林躋造各大將である

後任拓相には 八田滿鐵副總裁有力

(東京國通)陸軍では新内閣に相當の注文をもつて居り政黨人にして兎角の噂あるものは斷然之を排斥すべしとなして居り、閣僚の顔觸についてはある程度の進言を岡田新首相になすものとみられるが目下の處拓相後任としては八田滿鐵副總裁を推す模樣である

首相官邸を 組閣本部と決定

【東京國通至急報】陛下には園公の奏薦により岡田大將に大命を降下と御決定、後つて宮内省から十一時四十三分電話を以て岡田大將邸に午後二時參内する樣通知した、岡田啓介大將は畏き邊りの思召により直ちに首相官邸を以て組閣本部とした

三長官會議で 陸相を推薦

【東京國通】林陸相語る　齋藤首相の辭表の内容は分らぬ、高橋藏相のも分らぬが我々のとは別個と信ずる

齋藤首相として責任を感ずるのは當り前だ、過去四十日國務澁滯し、今後も若干續くものと觀られる、陸相は後繼内閣の首班決定の後その首班より陸軍に話し三長官會議を開き推薦しやう

陸軍として後繼内閣に意志表示はせぬ、總辭職で人心を落着け、徹底的に事件の清掃を要す

岡田大將の略歴

大命を拜受して内閣の首班となつた海軍大將岡田啓介氏は福井縣士族岡田嘉藤太氏の長男として明治元年一月誕生、明治廿二年海軍兵學校を卒業廿三年少尉に任官、大正十三年大將に進んだ、其間海軍大學校を卒業し、軍令部第三局員兼海軍大學校教官、千歳副長心得、八重山、千歳、春日朝日各副長、海軍水雷隊練習所教官兼海軍大學校教官、海軍水雷學校長、春日艦長、海軍省人事局出仕、鹿島艦長、佐世保海軍工廠造兵部長、第二艦隊第一水雷戰隊、第三水雷戰隊司令官、海軍技術本部第二部長兼第三部長、海軍省人事局長、佐世保海軍工廠長、海軍將官會議議員、海軍艦政局長、同艦政本部長、海軍次官、軍事參議官、第一艦隊兼聯合艦隊司令長官、横須賀鎮守府司令長官兼將官會議議員等に歴補され、昭和二年田中内閣の海軍大臣に親任され、齋藤内閣成立に當つて再び海軍大臣に親任せられ、昭和八年一月大角海相と代り勇退今日に至つたもので　一男二女、東京市淀橋の私邸に今日の晴の日を迎へたものである

土方日銀總裁 近く辭任せん

後任藏相の決定後

【東京國通】土方日銀總裁は今回の勅選を機會に愈々勇退するものと觀られるに至つた即ち同總裁は既に總裁の任期を二期も續けて居り、從來も屢々その辭任説が傳へられた程であるが、高橋藏相が人事には興味を持たず特殊銀行首腦部を積極的に更迭する意思を持たなかつた爲その儘となつてゐたもので、日銀總裁の任務は理論的には大藏大臣とは別個の立場に於て金融政策を遂行するものではあるが、今回の政變を機會とし且つは貴族院入りを以て功成り名遂げたものと觀られる爲同總裁も既に辭意を固めてゐると云はれる、但し辭任の時期は政局混亂の際中央銀行總裁が辭表を提出する事は適當でないため後繼内閣が出來て後任藏相が決定した後に行はれるものと豫想されてゐる

内閣組織者奏薦の 前例重臣會議

【東京國通】今回の重臣會議は西園寺公が元老なき後の内閣組織者奏薦を決する爲に淸浦伯、牧野内府、一木議長、鈴木侍從長、首相前官禮遇等の重臣會議を開き、前例を作るべく、特に招致したもので園公は既に今春上京の際之を決意し居り、今回其第一回を行つたものだと云はれてゐる

軍部内閣を以て 海軍會議對滿政策實行を期す

岡田大將に大命降下の經緯

【東京國通】重臣會議の結果西園寺公が内閣首班として岡田大將を奏薦申上げたことについては既報の如く強力内閣の出現が刻下の非常時局に處する所以だとの主張が軍部並に外務兩方面から强硬に主張されつゝあつたための際軍部内閣をしこかねての主張をもつて海軍會議並に對滿政策を實行せんとするに重臣の意見一致した結果によるもので閣員選定について岡田新首相は齋藤前首相に相談してその援助をもとめ陸軍方面とも打合せをなすものとみらるないが人格識見についてはかねてから敬意をはらつてゐた、海軍政策が世界の重要問題となつてゐる今日齋藤大將の後繼者として岡田

對滿政策は 微動だもせぬ

鄭國務總理語る

岡田大將への大命降下に當り鄭國務總理は次の如く語る

新内閣の首班たる岡田大將とは親しく相會するの機會がなかつたので同大將については何等語る資料をもたない

總監、警保局長等 内相に殉ずるか

【東京國通】警保局長、警視總監は從來の慣例では内閣總辭職と共に辭表を提出するのが今回は文官任用令改正の適用を受け且つ其職務の性質上からも進退を内閣と共にする要なく新制度の前例となる爲め辭表は一時留保し、内相更迭せば山本氏に殉ずる意味で松本、藤沼、潮の三氏も辭表を提出するに至るであらうと觀られてゐる

第二師團諸部隊 論功行賞發表

【東京國通】昭和六年より九年に至る事變に活躍したる第二師團諸部隊の論功行賞は過般發表されたが、其名譽の人々は左の通りである

功二旭一　中將　多門二郎
功五旭六　歩中尉　武田振
功五旭五　歩大尉　菊地忠雄
功七旭八　歩伍長　妥澤豐
功七旭八　歩上等兵　石山傳
同　本間錫太郎
功五旭五　歩中尉　笹川重三郎
功七旭七　工軍曹　柳通熊藏
功四旭三　歩中佐　宮城善助
功五旭五　砲大尉　南條讓
功七旭七　輜曹長　橋本正勝
功三旭日重光章　少將　長谷部照伍
功四　歩中佐　宮島岩一郎
功四旭日中綬章　歩大佐　子爵大島陸太郎
功四旭　歩中佐　黒石武城
功五旭四　歩大尉　江口小一郎
同　六歩中尉　有沼源一郎
功四旭日小綬章　歩少佐　佐藤尙信
功五旭四　歩少佐　松川安世
同　五歩兵大尉　天野一雄
同　六歩中尉　石母田武
功双光旭日章　歩中尉　千葉欣四郎
同　双光旭日章　歩中尉　本間六三郎
同　旭五　歩中尉　菊田淸吉
同六、一等軍醫　内山繁一
功六旭六　歩特曹　阿部榮
同　歩特曹　佐藤安治
同　歩特曹　門眞時助
功七旭七　歩軍曹　高橋俊之助
功七旭七　歩曹長　村上松藏
同　歩特曹　早坂直喜
功六旭六　歩特曹　塞河江與四藏
同　大町剛
功七青色桐葉章　歩特曹　千葉泰三
功六旭六　歩特曹　畑山總三郎
功七旭七　歩曹長　石山克己
同　靑色桐葉章　歩特曹　武山寄治郎
同　旭七　歩曹長　佐藤賢太郎
同　成澤孟
同　坂垣彦一
同　八巻茂
同　佐藤吉右衛門
同　湯村保三
同　阿部正
同　高橋寛之丞
同　千葉實
同　蘇武義美
同　大内久吾
同　三上與太郎
功七旭七　歩伍長　一看長　佐藤榮作
同　工藤保
同　石母田康
同　四海德之助
同　石垣武夫
同　木村郁
同　宍戸敬志
同　佐藤孝治
同　寺島利雄
同　横藤直喜
同　伊藤左十郎
同　千葉伊勢夫
同　針生嘉年
同　大崎誠
同　馬場義雄
同　鈴木勇
同　阿部次郎
同　旭八　歩伍長　尾形德三郎
功七旭七　歩伍長　高橋兆
同　山田新
同　杉山定雄
同　猪狩武
同　中鉢甚藏
同　阿部安雄
同　旭八　歩上等兵　七歩伍長　森田泰雄
同　今野勝之助
同　梅津淸
同　佐藤末夫
同　高橋浩藏
同　佐藤一男
同　高橋淸六
同　卜部内藏夫
同　菊地和七
同　門馬二三
同　旭八　歩五長　栗原三郎
同　七同　關沼忠
同　八歩上等兵　板橋武雄
同　歩伍長　岩藤好雄
功七旭八　歩上等兵　七歩伍長　森新太郎
同　佐々木正一
同　旭八同　浅野省治
同　七同　足利熊藏
同　鎌田仲右衛門
同　木村誠次
同　八同　宍戸清
同　七同　中澤石生
同　高橋靜夫
同　鈴木正男
同　八元歩上等兵　佐々木喜代太
同　歩上等兵　村上由之助
同　七歩伍長　遊佐白
同　佐々木喜平
同　八木盛二
同　八歩上等兵　吉田鶴右衛門
同　元歩上等兵　小池源吉
同　七歩伍長　渡邊芳治
功七旭八　歩上等兵　赤間隆陸
同　歩伍長　今野龜代治
同　旭七同　柳牛源太郎
同　八歩上等兵　須田直四郎
同　高橋忠治郎
同　佐藤恒平
同　歩伍長　佐藤繁
同　浅野保雄
同　阿部義信
同　旭七歩伍長　鈴木重信
同　歩上等兵　庄司重十郎
同　成瀨庸男
同　林丈太郎
同　旭八歩伍長　村上勝雄
同　七同　佐藤良平
同　小野寺惠三
同　八歩上等兵　佐々木悟郎
同　歩伍長　相澤武雄
(以下朝刊)

大藏事件の 第二段檢擧を協議

【東京國通】齋藤内閣の倒閣の因となつた大藏省疑獄事件はその後着々として檢察當局の取調べ進捗し大藏省關係の後に殘された贈賄者四名の確證を握るに至つたので東京地方檢事局では三日午後五時から檢事正室に岩村檢事正を中心に平田次席檢事その他係檢事參集、約一時間半に亘つて前記四名の追起訴と第二段檢擧に對する重要協議を遂げたこの結果檢察當局としては第二段檢擧に移る過程として證據固めを行つた上新政府の組閣を俟つて事件の核心をつくものと觀られて居る

大將の大命降下をみたことは海國日本にとつて慶賀すべきである、日本帝國の對滿政策に至つては既に確立してゐるのであるから何人が後繼内閣を組織しても微動だもなく兩國の國交は今後ますます敦厚を加へつゝ東洋平和のために寄與するところがいよいよ大であると深く信ずる

外交部談

岡田啓介大將に大命降下の報に外交部當局は語る

滿洲國としては齋藤内閣が岡田内閣に代つたからと云つて日本の對滿政策に變りのない事を確信してゐる、何れにせよ日滿兩國親善關係は將來益々固く結ばれて行くものと信じて疑はない

宇佐美顧問 語る

齋藤内閣總辭職の際目出度く勅選の榮冠をかち得た宇佐美滿洲國國務總理顧問は大命岡田大將に降るの報に「ほゝう岡田さんに決つたか」と前置きして

海軍は二代續きと云ふ譯じやなあ、一九三五、六年の危機を前にして、對内外的に日本も愈々本腰になつたと云ふ感じを與へこれで軍縮會議に對する氣構も變つて來よう、組閣の顔觸れは未だわからぬが、一刻も早く決定して政局安定を圖つて貰ひたいものだ

勅選の感想を問はれても別に話すことはない、只議員としての職責を完全に果したいと思ふのみじや、國務顧問の現職に止まるかどうかはスローモーションで考へるよと頗る朗らかに語つた

滿洲財界には 影響あるまい

栗原正金支店長談

新内閣の滿洲財界に對する影響について正金新京支店支配人栗原重康氏は次の如く語る

大藏大臣が誰になるかゞ問題であるが新聞の報ずるところによると新内閣もおそらく高橋藏相の主義を踏襲するやうであるし外務大臣は別に連帶責任による總辭職でないから新内閣にも又外相として入られることゝ思ふから滿洲の財界は勿論日本の財界にもあまり波動はないと思はれる

その日く

□後繼内閣組織の大命意外岡田啓介大將に降下

□一九三五、六年の危機に備へるに海軍大將をもつて内閣の首班とす

□中銀紙幣の回收率九割三分一厘先づ財政の健全が國の基礎

□けふから新京防空デー、空の護りなくして國防なし

□商議理事の椅子を繞り早くも暗中飛躍、策動しきり

人事往來

▲イーエッチキンガイド氏(米國揚子江艦隊副司令海軍少佐)三日午後四時三十分發大連へ

▲飯塚支店長(郵船會社大連支店)同上

▲佐藤中佐(哈市淀泊司令官)三日午後九時四十五分發哈市へ

▲野田文一郎氏(衆議院議員)三日午後十時發大連へ

▲刑士廉氏(吉長地區司令)四日午前六時三十分發吉林へ

▲佐堂卓雄(前滿鐵理事)四日午前七時來京同日午後九時發鞍山へ

▲アルフレッドレゲンスバルゲル氏(横濱高等工業學校教授)三日午後七時三十分大連から來京同日午後九時四十五分發獨乙へ

▲大津敏男氏(長崎縣内務部長)四日午前十時着滿洲屋投宿

團体

▲岩手縣々會議員十三名四日午後三時二十五分歸京哈市から同日午後四時三十分發南行

▲布哇邦人觀光團十五名四日午前六時來京同日午前八時三十分發哈市へ五日午後三時二十五分歸京太陽ホテル投宿七日午後十時發南行

▲長崎醫大生九名四日午前七時歸京哈市から同日午後五時發淸津へ

▲大同植產株式會社警備員百名四日午前六時三十分發吉林へ

▲專門學校以上卒業生新滿鐵入社員五十名五日午後四時來京吉林から同日午後四時三十分發南行

海外經濟

▲銀塊及爲替

倫敦銀塊　二〇片一六分三
同　先物　二〇片一六分五
紐育銀塊　四六仙八分五
孟買銀塊　七七留比四分三
米英爲替　五弗〇四仙八分一
米日爲替　二九弗九五仙
米支爲替　三四弗五〇仙
スチール株　三八弗〇分〇
アナゴンダ株　一四弗四分一

▲米棉

現物　一三仙三〇
七月限　一三仙〇五
九月限　一三仙二六
十二月限　一三仙四四
一月限　一三仙四八
三月限　一三仙五八
五月限　一三仙七〇

▲上海標金

本寄値　七九〇〇八
歩値　八〇四〇

▲上海日本向

賣　二四五〇〇
買　二四三〇〇

各地市場

▲上海倫敦向　賣　一志四片[illegible]分一　買　一志四片一六分五
▲上海紐育向　賣　三四弗八分三　買　三四弗一六分七
▲大連金鈔票　現物　一六、〇〇　七月十三日限　一六、五　寄付　一六、六〇　七月廿八日　歩値　[illegible]
▲大連上海向　大連鈔票對銀大洋　現物　九〇、五　引値・高値・安値・出來　[illegible]
▲大連臺台向　九〇四五〇
▲阪神日米爲替　第一回　二九　八分七　三〇〇分〇
▲大阪株式　大株新・鐘紡新・大新　[illegible]
▲同　短期　[illegible]
▲大連株式　大新・東新・日產　[illegible]
▲大阪三品　五品・先限・近新　[illegible]
▲大阪棉花　當限・八月限・九月限・十月限・十一月限・十二月限・先限　[illegible]
▲横濱生糸　當限・先限　[illegible]
▲大阪期米　現物・當限・先限　[illegible]
▲仁川期米　當限・中限・先限　[illegible]
▲神戸豆粕　當限・中限・先限　[illegible]
▲大連特產　七月限・八月限　[illegible]

新京市況

大豆　七月限・八月限・九月限・十月限・十一月限　[illegible]
豆粕　現物・九月限・十月限　[illegible]
豆油　現物・九月限　[illegible]
高粱　現物・七月限・八月限・九月限・十月限　[illegible]
特產　大豆　現物　八、五〇　出來高　二車
錢鈔　鈔票對金票・現大洋對金票・國幣對金票・現大洋對鈔票・錢鈔先物　[illegible]
七月廿八日限　寄付　二六、八〇　引値同
出來高　一萬八千圓

農安縣太平橋に時候外れのペスト
部落民恟々として逃亡續出
衛生司から醫師を派遣

農安縣榮家屯派出所劉事務官の報告によれば、農安北方高家店西北方十七里の地點太平橋部落に三日時候はずれのペストが發生し、同部落劉某の娘十五歳同十三歳の二名が死亡したので部落民は恟々として同地を逃走した、急報に接した民政部衛生司から直に坂本醫師を同地に派遣し調査に向つた

すばらしい景氣の中元大賣出し
特に呉服屋さんはほくほく

中元大賣出し、夏物大賣出し特價品大賣出し……、新柄大賣出し、新京の商店は中元をひかへて今大賣出しのオンパレード……夏物の賣出しも新京は中元が境となつてゐるので呉服、雜貨など各商店とも賣出しに大童となつてゐるがその賣行き狀況をきくに今夏は昨年の夏に比べて賣上げ高はうんと增加してをり殊に呉服類は豫想以上に高級品の出がよくなんといつてもまだ新京の景氣は高調です……と市內の各呉服屋さんはこゝもとほくほくの態である

困難だ、枇杷は年額百萬圓蜜柑が六十萬圓、何をいつても遠距離と關稅の關係で困つてゐる

なほ一行は二日程滯京後ハルビン、チチハル方面の市場調査をした上四兆線經由本月中旬歸任の豫定

五人組南關荒しを一網打盡逮捕
總領事館署谷口刑事等お手柄

昨年末から本年にかけ南關一帶を荒した拳銃强盜團の一味が郊外三不管南關の某滿人宅に潜伏してゐるを新京總領事館署谷口刑事、張、于兩巡補が探知し、三日午後五時ごろ前記場所を襲ひ、山東省生れ董金成(三七)、同李金福(三七)、同徐繼漢(三三)、同艷河濱(三三)、同艷卿濱(二八)の五名を逮捕しモーゼル拳銃二挺、彈二十發を押收した、余罪多數ある見込である

滿洲市場進出につき大体左の如く語る

今度來滿したのは單にこちらの市場調査に來た、別に水產物の滿洲進出の下準備とまではゆかない、でも縣の產物の約八割を占めてゐる水產物(イワシ製品年額四百萬圓、鮮魚七十五萬圓)の滿洲進出は當然のことで將來大いに考へるべき問題だ、農產物中枇杷に蜜柑は優秀な品が出るけれど高級品であると同時に高率の關稅がかゝり、痛み易いものだから滿洲に出すのは仲々

齊北線郭家、克東間增水で客貨中止

齊北線郭家、克東間は目下水害のため列車不通となり同區間經由の旅客及荷物の取扱を新京驛では中止した

ダイヤ打合せ會
新京の提出議題通過

大連滿鐵本社における今秋實施されるダイヤ改正に關する打合會に出席中であつた新京鐵道事務所營業係高橋旅客主任は三日午後七時三十分着鳩で歸京した、新京鐵道事務所から陳情した區間列車發着時刻の件は殆ど聞き入れたと

空巣
三百七十圓を盜む

曙町一丁目郵便局官舍平田秀三氏方へ三日午前零時から同午後四時の間家人不在を奇貨とし何者か硝子窓を破壞し內部に侵入し現金三百七十圓を竊取されてゐるを發見し直に右の旨新京署に屆出た、同署から係員が急行檢證を行つた結果、現場附近に某洗布所の名刺が落ちてゐるを發見したので同名刺を唯一の手掛りとして搜查を續けてゐる

長崎縣內務部長大津氏視察に來京

長崎縣內務部長大津敏男氏は同縣農林技手森口今朝夫、農會技手山下和三郞兩氏を伴ひ四日午前七時着列車で奉天から來京、直ちに新京市內商況の見學をした上、特に同縣產物の滿洲進出と密接關係のある新京せり市場會社の調査をした、大津氏は長崎縣產物の

故大垣氏の告別式
あす大正寺で

新京商工會議所では昨報の如く三日午後三時半から會議所で議員會を開き故大垣理事に對する弔慰金贈呈について協議した結果二千圓を贈り別に議員一同から相當な香典を佛前に供へることゝなつた、なほ氏の遺骨は四日午後七時半新京驛に着くので同夜は自宅で生前の昵懇者が通夜し五日午後五時から曙町大正寺で告別式を執行することゝなつた

木村毅氏座談會

來京中の文藝家木村毅氏を中心に四日午後二時から文教部上村學務司長、藤山監察院總務處長、各學校文藝部長、新聞記者ら集合、地方事務所長室で座談會を行ふ、なほ四日午後七時から(午後四時とあるは誤り)新京高女講堂で同氏の講演會が催される、木村氏は早大文科を卒へ文筆生活に入り文藝及び一般文化批評に卓越し殊に明治文化の研究家として知られてゐるが數年前より大衆文藝に筆を染めその該博なる考證的知識をもつて獨自の境地を開拓してゐる なほ同氏は東京日日新聞の文藝部囑託である

熱河の治安は想像外に好い
―中野琥逸氏談―

【大連國通】熱河省總務廳長中野琥逸氏は去る二十五日より新京で開かれた地方制度調査委員會幹部會に出席中であつたが、北支那を視察して承德に歸任する事となり三日正午出帆の天津丸で離連した、出帆前語る

熱河は昨年出水して交通不便な爲め此際北支那を視察し古北口から歸る事にした熱河省の治安は事變前以上にうまく保たれ殊に今年は降雨、天候等の好影響で阿片の收穫も增收が豫想されてゐる、承德には目下千二百名位の邦人が居住してゐるが、明年はもつと殖へる見込だ、外蒙に於けるソ聯の活躍はいろいろ傳へられてゐるやうだが、張家口、庫倫間の商業交通線を獲得したことは事實で其他內蒙に對する積極的侵略などデマではあるまいか

水產高級中學校國立に

【營口國通】奉天省立營口水產高級中學校は滿洲國唯一の水產學校であるが趙同校々長は文教部當局に建議の結果近くこれを國立とし三萬圓の豫算を以て校舍の增築、大規模の罐詰工場、大型實習船等を築造し滿洲國水產界に活躍する事となつた

三米人拜謁を賜ふ

來京中の米國アトランタ、コンスチチウシヨン紙副主筆クラーク氏夫妻及びジヨンス、ホプキンス大學教授ブライス博士は四日午前十時皇帝に拜謁、引續きU、P社フレー副社長も拜謁を賜つた

けふから防空デー
映畫と講演の會
明日は西公園で講演會

四日午前十時から商業學校講堂で滿洲防空協會新京支部主催の防空宣傳映畫と講演の會が行はれた、在京初等學校高學年兒童約一千名が集合飛行隊司令部河原中佐の防空に關する約三十分の講演の後防空映畫が上映された

奉天勝つ 9―1
對大連滿電野球

【奉天國通】大連滿電對奉天クラブ野球戰は、三日午後四時廿五分國際グラウンド球場に於て香川(球)室井、川越(壘)三氏審判の下に、奉天先攻で開始されたが、奉天軍先づ第一回目に猛襲、小島、岡田三壘打を飛ばし、一擧六點を獲得して氣をよくし、堂々と試合を進め遂に九對一で奉天軍快勝した、閉戰午後五時五十五分、バッテリー並にスコア左の如し

□バッテリー
奉天　小島―田村―鈴木
滿電　小松―潮崎―片岡

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
奉天	6	0	0	0	1	0	0	2	0	9
滿倶	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

矢澤校長高等官三等に陞進

從來高等官四等の待遇をされてゐた新京中學校長矢澤邦彥氏は陞進して高等官三等の待遇を受けることに決した

横須賀海兵團入團の岡田君出發

露月町三丁目五十四番地の四淸水伊重郞氏方の岡田梅雄(二一)君は九日横須賀海兵團入團のため四日午後十時發列車で新京出發の豫定、なほ同君は原籍群馬縣六月二十一日滿鐵入社と同時に新京保線區に勤務現在に至る

九大野球部
全新京、滿洲國軍と對戰

來征の九州大學野球部は五日午後四時から全新京軍六日午後四時から滿洲國軍と新京球場で對戰する

數十倍の匪軍重圍と戰ふ十數日間
滿洲國軍の龜鑑聞營長の奮鬪

【吉林國通】汪淸縣羅子溝は去る廿二日以來數千の有力な匪軍に包圍されてゐるが情報を綜合するに北面砲臺は既に陷り警察隊は悉く武裝を解除されたるも滿洲國軍は依然下らず悲壯なる籠城戰を續けてゐる、城兵僅かに一營、言語に絶する苦戰苦鬪である、警備司令部よりの救援飛行隊も連日の天候に妨げられて目的を達せられず、僅かに明月溝より步隊の救援を見たのみだが、聞營長は新に皇帝の統率下に置かれた滿洲國軍だ、匪軍の軍門に降つてたまるか、羅子溝城を枕に一營悉く戰死するまで匪軍の手に渡すなと部下を激勵しつつ自ら陣頭に立つて居り、二千の匪軍タヂタヂの態である、僅か一營に過ぎぬ寡兵を以て數十倍する匪軍の重圍裡によく羅子溝を死守する聞營長及び一營の部下は眞に滿洲國軍の龜鑑と云はれてゐる

羅子溝救援隊到着
賊團遂に潰走す

【龍井村國通】羅子溝包圍中の吳義成以下兵共匪混合部隊千三百名は、廿九日百草溝より急行した孫營長の指揮する一個團隊の到着を知るや、同日午後一時頃一度び同地北方一里半の地點に退却したが、夜に入りて二隊に分れて行動を起し、中一隊は卅日午前二時頃再び羅子溝に肉迫したので、同地を死守する聞營長指揮の一營と又もや猛烈なる銃火を交へ、奮戰の結果遂に賊團を潰走せしめた、この戰鬪に於て、敵の遺棄した死体は實に九〇四個、しかもその中には救國軍と僞稱する敵の旅長一、營長二、決死團長一、將校五名を發見した、尙此外に銃器及宣傳ビラも多數遺棄されてあつた

吉林附近へ兇惡な匪賊突如出現

【吉林國通】江東上達屯茶棚一帶に數日前より突如六十餘名の匪賊現はれ、掠奪暴行、放火等至らざるなく、ために附近農民は家を棄て續々省城へ向け避難中である

西來好匪老爺嶺に籠城

【吉林國通】過般舒蘭縣城を襲撃し多數の鐵器を掠奪せる余勢をかり吉林省城近くに迫り永吉縣警察隊及び自衛團聯合の討伐隊を鏖り兇暴の限りを盡してゐた西好匪團は去る廿八日柳家屯附近に於て我が吉林〇〇守備隊今村〇隊の出動により潰滅的打擊を與へられたが、尙も屈せず常勝好匪團を合流して再起を計るべく老爺嶺の大密林を根據地として附近群小匪賊を糾合しつつあり總勢五百余名と言はれ無名の鼠賊より一躍して拉賓線の巨匪太平と共に中部吉林に於ける綠林の龍虎と稱へられるに至つたので、京圖沿線の癌となる惧れあり、日滿軍憲は極力警戒中である

匪賊に通謀の緝私隊員
惡の巢を一掃

【營口國通】營口縣警務局の剿匪工作は既報の通りであるが、更に最近盤山縣第四區鹽雞、二大集、二龍江、亂石敷、西加信、常家毛から營口縣二界溝方面駐在の鹽務署緝私隊員中、匪賊と共謀して大規模の密輸も行ふもの多く討伐隊が襲撃すればこれ等隊員は晝は赤旗 夜は煙火を擧げて匪賊に通報する等頗る密接に連絡して居る爲め討伐に困難を感じて居たので今回は徹底的にこれを討伐すると共に盤山縣とも協力して惡の巢を一掃することゝなつた

興城、綏中に新鹽田

【營口國通】營口鹽務署では興城、綏中方面の出張員より同地附近海岸に鹽廠の適地數十ケ所を發見した旨通報があつたので一日與產鑛科長現地に急行實地調査をする事となつたが、適地と決定の上は鹽務署直營として經營する事となつてゐる

松田家不幸

新京地方事務所水道主任松田武彥氏令孃規美子さん(四歲)はハシカのため滿鐵醫院に入院中のところ急性肺炎を併發四日朝逝去した、なほ告別式は五日午後三時半から祝町西本願寺で行はれる

仙人掌

笑つてしまへないコント一つ……どこか寂寥を包みきれない彼女の瞳ゆえにアーさんは切ない思を秘めては幾夜か「白馬」の灯影の客となつたのだ▲ある晩の「今夜でお別れよ、だからあたし飲むわ」ミユキの思ひがけない言葉にもアーさんはしまひまで名もつげず淋しく笑ふだけだつた▲ツーンと鼻をつく熱いものを感じたアーさんだつたがその後十日もたつた晩のこと、彼が「白馬」にフラリと立ちよると「…だから今夜は醉はしてねー」ミユキの嘲るやうな唄がきこえる

▲「アラ先日は失禮しました」アーさんはその時思つた、やつぱり女給は女給だ▲南海の笑香、別に活躍が過ぎた譯でもなからうが少々体に變調を來し、目下滿鐵病院に入院中道路に面した垣根の中から恨めしげに外を眺めては幾人かの彼氏のうち一人位は見舞に來てくれぬかしらと、いゝ加減大きな眼を更に々々みはつて物色しておじやる

街の日記

先住福田闡正師座談會

先般御通知申しました當寺先住福田和尙一行は明五日ハルビンより歸途當地に二日間滯在せられますので來る六日午後七時より當長春寺に於て同師を中心に座談會を開く事に快諾を得ましたから皆さんお誘ひ合せ御來會下さい、但し會費不要尙來る七日午後正六時より右一行の歡迎會を市內大和通り益興樓に於て開催致します、有志の方は電話(二九二三番)へ御申込み下さい但し會費十圓也(若し剩余金を生じたる場合は割戻す)

長春寺

新發屯にバー上海支店

東二條通りのバー上海……此程新發屯安達街(競馬場手前)橋側に支店を開設した、附近にはまだ喫茶店すら無い不便な處にバー上海の進出、內地より新入女給數名が到着陣容を整へ、三日華々しく開業したが工事請負現場監督と言つた連中で賑つてゐる

ケンネット號田村支店開業

建築事務所では自轉車界の雄岡勉氏經營の永樂町一丁目岡ケンネット號發賣田村商會新京支店を兼營し前記ケンネット號の外サクセス、ナイト號

……自轉車商を通じ近く百合の宣傳賣出しをする筈であるが、益々手廣く擴張營業の岡氏の手腕、流石金市長の秘書として立志傳中の人とし前途益々期待されてゐる

滿電中元賣出し

滿電新京支店では七日から十二日まで六日間同支店で景品付中元大賣出しを行ふことゝなつたが賣出品の主なるものは扇風機、新形電氣スタンドその他電熱器、照明器具などで現金三圓以上買上げの客に對して景品券を出し五圓以上はその上正札より五分引をすることになつてをるちなみに景品は輸入組合の商品券で▲一等四十圓(一人)▲二等二十圓(二人)▲三等十圓(三人)……(五人)▲六等粉末石鹸(四十人)である

拾ひもの

▲常盤町六丁目關齊市郎氏は三日午後自宅附近で黑皮財布一個現金十圓五十錢を拾つた

盜難屆

▲三笠町二丁目三番地加藤義雄氏方東二條通白隆棧院內倉庫に入れてあつた麻袋六百五十枚時價二百四圓を何者かに竊取されてゐるを三日發見し新京署に屆出た

けふの銀相場

鈔票對金票	一六四〇二
現大洋對金票	一三三五〇
國幣對金票	一九四五
現大洋對鈔票	九六四五〇

新版 江戸八景

（上總屋）行友李風原作　銀平他二氏畫

江戸役者と御殿女中　九二　行友李風

『おかげをもちまして、この通り、達者な身體にさして頂きました。……これもひとへに、親方さんのお情のたまもの。……あつく御禮を申し上ます――』

改まつて述べる大吉の禮を。

『なんの〳〵、その言葉には及びません。――早くよくなられて わたしも、これほど、よろこばしいことはない。――ま、さう、固くならずに、くつろいでください……』

嘉十郎は、あく迄やさしい。

『ありがたうございます』

と、面をあげた大吉。

『それにつきましては、親方さん。――今後の身のふり方についても、いろ〳〵、お心添へをいたゞきましたが、……何の職につくといふよりは、いつそ、佛門に歸依して、これからの生涯を、功徳の修業して果てやうかと存じます――』

大吉、――中老菊路が兄弓之助の手にかゝつて相果てたとき、――あゝ、すまぬことをした。これといふのも、私の不徳から……と、こみあげてくる良心の苛責こゝに。――佛門に歸依して、せめては自分ゆえにこの世を去られたお中老さまのお後を弔ひまゐらせようと、發心したのである。

これをきいて、嘉十郎。

『あゝ、よく、そこ迄の心になんすつた……それでこそ、お前さんの後生が安樂といふものだ――』

『はい――』

言葉をのんだ大吉。――つゞけて。

『それにつきましては、[illegible]んに、いま一つ、……生涯にたつた一つのお願みがございます』

『いや、――どんな願みかしれないが、わたしで出來ることならきつとお引きうけ申しませう』

『はい――』

『さて、その願みとは……』

『親方さん。――そのお願みと申しますは、たゞの一足でよろしうございますから、舞臺の端をふませて戴きたい……』

『えッ！』

いや、嘉十郎、おどろいた。――舞臺おかまひの身でありながら、舞臺をふみたいと云ふのだから、おどろくのも無理ではない。

『もちろん、お上様からお構ひをうけた大吉――』

大吉は、嘉十郎を追かけるやうにつゞけて。

『役がつとめたいとか、せりふを云ひたいとか申すのではございませぬ。――御見物衆はもとより樂屋の衆にも、一切顔はみせません。――たゞの一足でいゝのでございます。――これと云ひますのも、幼い頃から、兄の新五郎と二人、天晴職道に名を殘さうと、歌舞伎役者に志しました大吉が、浮き世をすてると覺悟しました今、――せめて名殘の一足をふまして頂きたいのでございます――』

きいて、嘉十郎、――大吉の切なる心中を思ふと、どうしても、退けることができなくなりました

『なるほど、――さう云ふお前さんの氣持はよくわかる。――お上の法度を破るは心苦しいが、それほどまでに思ひなさるなら、嘉十郎が引きうけて、立派にふませてあげませう……』

『えッ！ では、――』

『如何にも――』

『あ、ありがたうございます』

大吉、思はずひれふしました。

◎▲◎……

◎▲◎……

七月五日　木曜　丁丑　佛滅　危　斗宿　舊五月廿四日

●一白の人　地位は低くとも失望する勿れ次第に向上す　乙と辛と寅が吉

●二黒の人　時折り不安に襲はるとも撓まず勵むが勝ち　丁と辛と寅が吉

●三碧の人　上に逆はず下に撫育する時は德望大に揚る　乙と丙と辛が吉

●四綠の人　遠方の便りは當てにならず商事は殊に注意　丙と丁と寅が吉

●五黄の人　内外の調和を保ち先き走らぬやうにすべし　坤と申と寅が吉

●六白の人　放漫なれば事亂る氣を締め手を詰むべし　申と辛と寅が吉

●七赤の人　目上の言を尊重すれば引立を受くる事多大　辛と癸と寅が吉

●八白の人　外に出て苦心するも功なし内に居るが安全　丙と丁と辛が吉

●九紫の人　運氣盛なる如く見へても不時の失敗を招く　甲と丁と寅が吉

新京日日新聞

朝刊

本紙夕刊共八頁

發行所 新京永樂町四ノ一 新京日日新聞社 電話三二五三・三三〇〇

發行人 十河榮忠
編輯人 松本勇
印刷人 谷啓二郎

陸、海、外三相留任

岡田新內閣顏觸れ

內閣書記官長に河田烈氏

警視總監も留任か

(東京國通至急報) 林陸相は三長官會議の結果留任に決定した

(東京國通至急報)岡田首相から留任を懇請された大角海相は愼重考慮の上四日午后五時二十分伏見軍令部總長宮殿下に拜謁、海相としての進退問題につき言上の結果留任を決意してこの旨岡田首相に回答するところあつた

(東京國通至急報)廣田外相は留任に決した

(東京國通) 岡田新內閣の顏觸れ、五日午前零時までの下馬評に上る閣員顏觸れは次の如くである

內閣總理大臣 岡田啓介
外務大臣 廣田弘毅(留任決定)
內務大臣 山本達雄 水野錬太郎 床次竹二郎
大藏大臣 町田忠治
陸軍大臣 林銑十郎(留任決定)
海軍大臣 大角岑生(留任決定)
司法大臣 和仁貞吉 林頼三郎 小原直
文部大臣 永田秀次郎
農林大臣 後藤文夫(留)
商工大臣 (不明)
拓務大臣 八田嘉明
鐵道大臣 (不明)
遞信大臣 (不明)
內閣書記官長 河田烈(決定)

(號外再錄)

新內閣組閣方針

【東京國通】岡田新內閣の組閣方針としては來るべき一九三五、六年の國際的重大危機に備へるべく國防及び外交第一主義で進む事に決定して居るが、同時に政黨を尊重し政民兩黨を始め各方面より人材を集め所謂擧國一致强力內閣を作る方針で政策は大体齋藤內閣の方針を踏襲する意向であるが、前內閣が綱紀問題で倒壞したるに鑑み綱紀肅清を重大政策の一つに掲げる方針である、尙閣僚詮衡に關しては岡田大將は三つの意見を有して居るが四日午後齋藤前首相と會見し首相の意見を聽取して決定する筈であるが現閣僚中よりも相當入閣する模樣である

內閣書記官長 河田烈氏に決定

(東京國通至急報)內閣書記官長は現拓務次官河田烈氏に決定した

對新內閣方針を 陸、海兩相間で協議

一九三五、六年の危機に備ゐる

【東京國通】林陸相は四日午前九時三十分海相官邸に大角海相を訪問、齋藤內閣總辭職に伴ふ後繼內閣に關して西園寺公より軍部の意見を聽かれた場合、軍部の意見を如何になすべきかについて意見の交換をなした結果、陸、海軍は一致した行動をとる事に決定陸相は同十時官邸に入り直ちに植田參謀次長永田軍務局長を召き海相と會見した顚末を報告、協議したが軍部としては積極的に行動はとらざるも聞かれた場合は一九三五、六年の非常時を控へての强力內閣の必要を披瀝する事となつた

後任藏相の下馬評を中心に

水曜會定例午餐會賑ふ

岡田大將に大命降下の四日新京財界のお歷々で組織されてゐる水曜會の定例午餐會が大和ホテルで行はれた、會する者杉之原(鮮銀)栗原(正金)栗田(滿銀)中山(三井)渡邊(東拓)草間(採金)の諸氏とて話の中心は何と云つても後任藏相の顏觸れだ、對滿國策の根本が變るでなし財界にも影響薄とて方々から勝手な下馬評續出、勝田主計氏を擔いで讓らざる者、馬場英一氏を固持する者等々結局擧國一致の意味から政友より鈴木總裁が內相に、藏相には民政より若槻總裁と意見の一致?を見て三々伍々散つて行つたが、まるで組閣本部にある岡田新首相の胸三寸をぶちまけた樣、先日來岡田首相說を樹てゝ讓らず其豫想がピッタリと當つた草間氏はかけ?でもして置けばよかつたと云ふ樣な顏をして居た、と云ふのは記者の蛇足

遠藤總務廳長 渡日

遠藤總務廳長は日本に於ける關係各方面と諸般の打合せの爲四日午後四時三十分發列車で日本へ向つた

岡田大將に大命降下は當然

伍堂理事語る

【奉天國通】伍堂滿鐵理事は四日午後一時二十八分「はと」で新京より來奉したが驛頭にて出迎へた記者が「大命は岡田大將に降りました」と話の緖口を切り出せば「さうだつてネ、岡田さんはとても良い人だ」と前提して語る

僕は始め平沼さんに降ると思つてゐたが岡田さんと聞いて一寸意外の感を懷いたしかし一九三五、六年の外交危機を控へてあの人に大命が降つた事は寧ろ當然の事かも知れぬ內閣が變つて滿鐵の正副總裁が更迭する樣な事はないだらう、いやそんな事は絕對にないと確信してゐる

同氏は今夜十時四十五分奉天驛發列車で大連へ向ふ筈である

北鐵交涉 纏るか

關係方面觀測

【ハルビン國通】北鐵讓渡東京交涉の好轉とクヅネツオフ氏歸哈の報に接し當地關係方面の同交涉に對する意見を綜合するに今回のソ聯側の讓步とクヅネツオフ氏の歸哈は北鐵讓渡交涉の好轉を意味する事明かでクヅネツオフ氏歸哈後の行動により北鐵讓渡交涉に對するソ聯側の空氣は讀める譯で滿ソ兩國側が現地交涉を開始する前提か又は東京交涉成立を見越しての準備工作に移るものとも觀られ、從來の觀測と異るのは玆二、三ヶ月中に同交涉成立と見る向が多い

岡田大將齋藤前首相訪問

大藏事件內容聽取

【東京國通】岡田大將は午後二時十分內閣組織の大命拜受して御前を退出するや直ちに永田町の首相官邸に齋藤子を訪問して齋藤內閣總辭職の原因をなした大藏省事件、及び某事件の內容に就き組閣の參考上諒知致したいと質し、齋藤子は小山氏より報告を受けた事件の內容に就き詳細說明を爲した、岡田總理は官邸日本間を組閣本部とし藤沼警視總監、河田拓務次官を招致して直ちに組閣に着手した、尙藤沼氏は書記官長に推されるものと觀測されてゐる

遠藤廳長談

岡田大將の大命拜受について遠藤總務廳長は語る

下馬評に上つた數々の候補者の中から岡田大將に大命降下したのはいさゝか意表外であつた、然しやはり現下日本における海軍問題の重要性に鑑み、岡田大將の組閣は事宜に適したものといへる、いづれにせよ日本の對滿政策は既に確固たる基礎の上に立つものであるから今後とも兩國の關係はますます緊密の度を加へる以外何ものもないと信ずる

新任藏相は 高橋財政を踏襲せん

山成中銀副總裁談

日本の政變に關し山成中央銀行副總裁の感想をきけば語る

岡田大將に大命降下をみたのは齋藤內閣が出來た當時と少しも變りない非常時局の延長で今まで多少政黨方面の意嚮に動きがあつても結局從前のやうな擧國一致の强力內閣が＝必要＝だからであると思はれる從つて岡田新首相の下に一層强力な內閣が出來上つて今後の難局に當るべくその政策大綱上大きな變化ありとは思はれない併して日本の財界は非常に老練な天才的な朝野の信望ある高橋藏相によつて財界の建直しが行はれつゝあつたわけでそのインフレ政策の如きもよく事宜に適し日本財界が好況に向ひつゝあるのみならずこの滿洲國も豐富な日本資本の投下によつてこれが好影響をうけつゝある際であり一面高橋藏相は滿洲國に對しての部下の俊秀を割愛して滿洲國の財政を扶けられたのであつて滿洲國の財政經濟に非常なよき理解をもつて居られ誠に親切な助言者であつたので、この人が地位を去られることは滿洲國にとつても＝非常＝に惜しむべきであると考へてゐる、併しながら高橋藏相が再び留任されるといふ事は到底事情が許されぬやうにも思はれるからいづれ新らしい大藏大臣が任命されるのではないかと想像される、日本の財政及び經濟界の狀勢から見て政策の變更は各方面に重大な衝動を與へ、折角建直りつゝある財界に惡影響をもたらすものと考へられるのであつて新藏相は必ずや舊政策を踏襲するものと思はれる、そうなれば滿洲國財界も全く變動を蒙ることなく從來の趨勢からみて依然當分內地資本の流入をみることであらう、要するに我が滿洲國財界は今後とも大した變化はなく、より良くなつてゆくものと思はれる

岡田首相五日 兩黨總裁訪問

內閣の支持を求めん

【東京國通】岡田新首相は齋藤內閣同樣政黨の援助をもとめ擧國一致內閣を組織することゝなるので五日鈴木若槻兩黨總裁を訪問し政黨を尊重、時局に善處したいとの意味を述べ兩黨の支持を求める筈である

大藏事件擔當の 黑田檢事重態

(東京國通)病中の大藏事件の黑田檢事は二日夜より肺炎を併發し、脚氣の氣味あり重態となつた

重れ重れの吉報で 色めき立つ新首相邸

【東京國通】大命を拜した岡田大將の家庭は參內を仰付られる電話がかゝると同時に明るく色めきわたつてゐるが家族は丁度三女喜美子(二一)さんが五月二十六日鈴木大尉に嫁し嗣子貞外茂大尉も御目出度い緣談が着々進行中と言ふところへこの重ね重ねの吉報なので大喜びの態である

藤沼總監も 留任せん

【東京國通】藤沼警視總監は午後三時三十分組閣本部に於て岡田新首相より留任を懇望され特に考慮の上回答する旨を述べて辭去したが結局留任するものとみられてゐる

松本商相は 留任辭退を言明す

【東京國通】松本商相は未だ岡田新首相より何等交涉を受けないが同商相はたとへ留任懇請を受けても留任を辭退する旨言明した

滿洲國辭令

任郵政管理局技士(委任一等) 澤田久男
哈爾濱郵政管理局勤務を命す 梶原景正
任郵局屬官(委任一等) 加賀谷馨
任郵政管理局屬官(委任二等) 油川勇
哈爾濱郵政管理局勤務を命ず(各通)
任郵局屬官(委任二等)(各通) 佐藤美靜 岡本龍三
任郵局屬官(委任二等)當分の間哈爾濱郵政管理局勤務を命ず 松岡六衛門
任郵局屬官(委任三等) 藤原七郎
郵政管理局屬官 盆子原壽男
同 佐々木多計男
同 元吉明治
同 森勝榮三郎
郵政管理局技士 澤田久男
兼任交通部屬官、交通部郵務司勤務を命ず(各通)
郵局屬官 梶原景正
兼任郵政管理局屬官、奉天郵政管理局勤務を命ず
郵局屬官 加賀油川勇 馨
兼任交通部屬官、交通部郵務司勤務を命ず(各通)
同 郵局屬官 佐藤美靜
兼任郵政管理局屬官、哈爾濱郵政管理局勤務を命ず
同 岡本龍三
兼任郵政管理局屬官、奉天郵政管理局勤務を命ず
兼任郵政管理局屬官、哈爾濱郵政管理局勤務を命ず 藤原七郎
轉任國務院總務廳事務官 財政部事務官 藤井唐三
任六等 敍薦
國務院總務廳恩賞處勤務を命ず
法院繙譯官 小串任
轉補北滿特別區高等法院繙譯官
兼補北滿特別區地方法院繙譯官
司法部事務官 山崎一雄
依願免官
康德元年六月二十日

郵政管理局屬官 鶯行雄
兼任交通部屬官交通部郵務司勤務を命ず
任交通部屬官(委任一等)交通部郵務司勤務を命ず 水上清
任郵局屬官(委任一等) 鈴木美喜
兼任郵政管理局屬官、哈爾濱郵政管理局勤務を命ず 鈴木美喜
任郵政管理局屬官(委任一等)哈爾濱郵政管理局勤務を命ず 原昇
郵政管理局屬官 原昇
兼任交通部屬官、交通部郵務司勤務を命ず
任郵政管理局屬官(委任二等)奉天郵政管理局勤務を命ず(各通) 福島穰 小川宗源
兼任交通部屬官、交通部郵務司勤務を命ず 福島穰 小川宗源
任郵局屬官(委任二等) 中村三藏
兼任郵政管理局屬官、哈爾濱郵政管理局勤務を命ず 中村三藏
郵局屬官 友枝征露 藏重亮一 古田篤郎 濱本正三 田村明雄
任郵局屬官(委任三等)各通
同 友枝征露 藏重亮一
兼任郵政管理局屬官奉天郵政管理局勤務を命ず(各通)
郵局屬官 吉田篤郎
同 濱本正三
兼任郵政管理局屬官(委任三等)哈爾濱郵政管理局勤務を命ず(各通)
郵局屬官 田村明雄
兼任交通部屬官交通部郵務司勤務を命ず
任郵政管理局屬官(委任一等)奉天郵政管理局勤務を命ず(各通) 盆子原壽男 佐佐木多計男
任郵政管理局屬官(委任一等)哈爾濱郵政管理局勤務を命ず(各通) 元吉明治 森勝榮三郎

偶語

意外！意外！一般の世評を裏切つて、大命は在郷海軍大將岡田啓介氏に降下した、誰れ彼れと世間は雲の動くのを見て騒いでも、元老西園寺公はチャンとこの人と早くから目星をつけてゐたに違ひない▼御下問に奉答申上げたその意中をつらつら觀ずると、之は來るべき軍縮會議と滿洲問題の重要性に鑑みて、思慮深き園公の英斷による結果と見るが如何？▼これを一言にしていへば國防の重要性に出發し、換言すれば一九三六年の危機に備へる陣容の一新ともうかゞひ知る全く故なきに非ず▼首相としての岡田さんは勿論未知數だ、また新首相のもとにどんな顏觸れが揃ふかはつきりせない今日、その前途を忖度するなどは早計だ▼しかし岡田新首相はたとひ現在は現役を去つてゐても、山本權兵衞逝き、財部彪氏また軍縮の痛手を受けて不評の今日、わが海軍での無傷の重鎭であることに何らの疑點はないはずだ▼世評によると、軍部方面では寧ろ加藤寬治大將の呼聲が强かつたやうであるが、さりとて岡田大將に反對があらうとは思はれない▼宇垣、平沼いづれも一長一短、また齋藤子、大藏省事件にたたつてその責任不回避とあれば、これを他に求むるが至當であり、眞の非常時を前にしてこれを海軍部內に見出した西園寺公の銳眼には敬服する▼殊に偶語子が何より痛快に思ふのは有象無象の自薦候補をみごと斥けて斷然意外の新人？を物にしたことである、わが元老園公未だ老ひず、いよいよ以てその天來の頭の冴えを發揮したことだ▼最後に、吾等の新首相に望むところは、今更綠起へすまでもないが、思ひ切り公明强大であれ！といふ一事のみ

郷土人の歡び

わしが國さの福井黨萬々歲！

蓋し非常時首相に最適任

滿洲國監察部長 品川さん語る

一九三六年の危機を控へて、皇國日本を背負つて立つ新首相、岡田啓介大將の故鄕は北國の福井縣だ、わしが國さの鄕黨の喜ひはさることながらいま新京に於ける新首相と同鄕の人々を拾つて見るとある々々……まづ滿洲國監察院監察部長品川主計、關東軍交通部監督部長大村卓一、滿洲採金會社副理事長草間秀雄、正金銀行栗原重康の諸氏を始め電々會社中谷、東拓加藤、採炭會社米澤、新京醫院吉村、商業學校辻本、大連火災細井、東本願寺宮谷の諸氏ら多士濟々、いづれも新首相を出した＝鄕土＝の譽れをわが事のやうに喜んでゐる、中でも品川監察部長は東京にゐたころ岡田大將が鄕里の育英事業に盡力しその下働きを仰せつかつたといふ因緣があり、逸早く祝電を發したほどの喜びである、岡田大將に大命降下の＝報を＝もたらして品川氏を訪へば本社の號外を前にして語る

いよいよ岡田さんに決つたやうですね、岡田大將は非常に圓滿公平な人ですよ、私ども學生時代から警視廳の警視を勤めてゐるころ、大將が熱心に鄕里の育英事業に努めたが、私どもその下働きをしたものです、齋藤さんの後繼としては蓋し最適任でせう、奧さんがなくなられて、家庭的には惠まれなかつたともいはれるが、武人だけに全く質素な人でいつも官邸でも銘仙のひどいのを着て全く＝書生＝の樣でした、どちらかといへば無口といへませうがそれでも決して不愉快ではない何とはなく親しみの深い人です、斗酒なほ辭せずといつた方でしたが健康に注意されるやうになつて今はそれほどでもないやうに聞いてゐます

一般職業婦人の爲 和洋裁縫講習

夜間家事講習所で

晝間業務に携はる一般職業婦人のため、家事講習所では社員會婦人部と共同主催の下に同所講師を煩はして、夜間講習會を開くことゝなつた、期間は七月十日より八月十四日まで毎週火、木の二日、時間は午後六時三十分から同九時まで科目は洋服科は婦人服（ウエストブロース、スカーフドレス）和服科は隨意、講習料は全期間中前者二圓後者一圓、また同家事講習所では從來午前九時から午後三時半まで授業時間となつてゐたが七月十日から八月十五日まで午前八時より正午までに短縮されるはず

電話の架設は受付順番となる模樣

豫納金の拂戾はけふから

新京中央電話局では本年度至急電話申込みに當つて落選した申込者並に一期、二期の豫備に當選した申込者に對しては五日午前十一時から、第二期當選者には五日通知を發して六日午前十一時から何れも同局受付で豫納金三百圓の拂戾をすることゝなつたので、申込者は受領證に申込みに際して使用した印鑑を是非持參されたいと、なほ第二期當選者に對しては既報の如く豫納金拂戾の時から正式の加入申込登記を受理することゝなつてをり第一期當選者の加入登記は七日から受付を開始し、電話の架設は大体受付順番によることゝなつてゐる

本莊女史演說

七、八兩日夜

既報、來京中の本莊幽蘭女史は各方面の熱望により、來る七、八兩日夜七時から新京永樂町一丁目太陽ホテル三階大廣間で一般大衆のため、馬賊遭難更生の熱辯を振ふことになつた、演說、漫談、事實講談の三色とりどり例の痛烈骨を刺す激論、洒脫諧謔縱橫無盡の快辯は必ずや一般の好評を博することであらう、會費五十錢、プログラムは左の通りである

その一、演說
一、滿洲の出演と大日本帝國の將來（七日）
二、北滿北鮮台灣產業大觀（八日）

その二、漫談
一、おへその行方、女の小指（七日）
二、ぬけがらと蛙の眼、金平糖の角（八日）

その三、事實講談
一、血淚秘話馬賊物語（上、下）兩夜連續
男女貞操問題の活資料
二、事實告白、本莊幽蘭懺悔譚（父性篇七日、處女性篇八日）

なほ八日（日曜）家族慰安講話會も開くはずで會費無料

スポーツ界

滿洲國軍振はず零敗を喫す

對早稻田大學野球

5―0

東都六大學の花形早大軍を迎へ對滿洲國軍の第一回野球試合は四日午後四時から西公園球場で石關（球）皆川藤戸（壘）三審判の下に早大先攻で開始されたが、滿洲國軍の攻擊振はず五對零で慘敗した、閉戰五時三十五分、兩軍メンバー得點は次の如くである

先										
早大	1	0	0	2	0	0	0	0	2	5
滿洲國	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

5對0

早 [illegible]
打數 得點 安打 盜壘 三振 四死 犧打 失策
34 5 8 1 1 5 8 0 1
滿洲國 [illegible]
29 0 3 0 2 1 3 3 0

試合經過

一回（早）高須二壘右を拔く安打に出で手島の遊擊ゴロで二壘に刺る、續く小島、藤堂四球を選び一死滿壘となり絕好のチャンスを迎へ、林の遊匍に手島生還一點を先取し橫山二飛▲二回鈴木四球、大下二壘左を拔く安打に二進、小林一壘前犧打に走者二、三壘、高須三振、手島二飛に好機を逸す▲三回三者凡退▲四回、橫山一ホ、鈴木四球、大下一壘左を拔く安打を右翼手攫みそこない三壘に進みその間鈴木生還小林遊匍その間大下一擧に本壘を突き捕手の落球で一點を加へた、高須遊匍▲五、六七、八回凡退▲九回一死後大下中前安打、續く小林左翼越三壘打をかつ飛し大下生還續いて高須中前安打に小林生還、手島三、遊間に安打、小島二匍、藤堂遊匍に終る得點五點これに對し▲滿洲國三安打を得たのみで振はず

庭球部の鐵嶺遠征

メンバー決る

新京体育聯盟庭球部では來る八日午前十時より全鐵嶺軍と一戰を交ふべく七日午後十一時發遠征する、出場メンバー左の通り

1、（岸川中村） 2、（緒方尾形） 3、（加藤一松） 4、（大串原口） 5、（上野竹內） 6、（長與手島） 7、（渡邊山田） 8、（田中林） 9、（折目林）

奉天醫大蹴球・チーム試合日取

中銀蹴球チームを三對零で敗つた奉天醫大蹴球チームは民政部、全新京と左記日取りで試合を行ふ筈

對民政部戰 五日午後二時半より西公園
對全新京戰 六日午後二時半より西公園

京大弓道部來京 八日新京弓道部と試合

京城大學弓道部選手一行十一名は奉天、撫順、大連の各地に於ける試合を了へ來る八日午前七時來京することとなつたので新京弓道部は同日午後二時一行を滿鐵弓道部道場（中央通ヤマトホテル向側）に迎へ華々しく試合をなすべく準備中である、選手一行は何れも相當熟練し所謂猛者揃ひで各地に於ても充分技倆を發揮し實力を示し居るにつき新京弓道部との試合は興味殊の外深いので斯道に志ある者の見逃せない機會である、なほ此の試合には四平街、公主嶺、范家屯及び吉林よりも參加する由であるから當日は定めし盛況を呈すべく參觀は隨意とのことである

十四、五の兩日 商業校で美術展

來る十四、五兩日新京商業學校で奉天商工會議所主催の商業美術展覽會が開催される

「鳩」より二時間早い

超特急「滿洲」がお目見得

十月一日から實施

既報南滿鐵道會社では十月一日から定期ダイヤ改正の實施を行ふが旅客列車の改正時刻打合せは數日に亙つて大連で協議された結果大体の決定を見た、貨物列車の分も本月中旬に同樣大連で關係者が打合せをするはずで貨物列車の分が決定すればいよいよ改正時刻も決定する筈である、なほ京連京奉間直通列車には從來はその日中に大連につく列車としては朝の九時發（鳩）一列車であつたが、今度の改正によるとこの列車の外に午後一時三十分新京發第十二列車超特急滿洲があつて、これはその夜十時に大連に到着することとなり、この外に鐵道界の一大向上とみられる釜山新京間直通列車「光」が奉天新京間を走る、「光」は午前七時新京發奉天に午前十一時三十分到着の豫定、なほ前記鳩、滿洲、光の發着時刻表は大体次の通りである

▲鳩特急（上り第十四列車）新京發午前九時、大連着午後七時三十分（下り第十三列車）大連發午後零時新京着午後十時三十分所要時間十時間半）▲滿洲超特急（上り第十二列車）新京發午後一時三十分大連着午後十時（下り第十一列車）大連發午前九時新京着午後五時三十分（所要時間八時間三十分鳩より二時間短縮）光（上り第二列車）新京發午前七時奉天着午前十一時三十分（下り第一列車）奉天發午後四時三十分新京着午後九時

家事講習所 大屯へ遠足

新京滿鐵家事講習所では作品展覽會慰勞を兼ねて相互の親睦をはかるため、五日午前九時五十分新京發、十時十九分大屯着、徒步にて二キロ、娘々廟山上に遠足を行ふ、なほ山上で各員の余興などあり、午後四時三十分大屯發、四時四十分歸着の豫定

クラーク氏夫妻、離京大連へ

來京各方面を視察中であつた米國アトランタ、コンスチチウション紙副主筆クラーク氏夫妻は午前十一時發飛行機で大連に向つた

新京商業校の

夏期休暇の行事いろ／＼

商業學校の夏期休暇は七月十一日から八月二十一日迄であるが主なる行事は次の通りである

一、野球部合宿 野球部では八月中旬甲子園球場で行はれる晴れの全國中等學校野球大會を目ざして全滿豫選大會（奉天國際グランド）に優勝を意氣込み七月十日から二週間、學校で選手の合宿練習を行ふコーチャーには往年大連實業でならした疋田（滿洲國）選手が決定してゐる

二、柔道部合宿 過般全滿豫選大會に優勝したわが新商柔道部はいよいよ七月二十八、九、三十日京都武德殿道場で擧行される榮へある全日本中等學校武道大會に出場の光榮を獲得したので意氣軒昂、七月十五日から一週間の合宿による猛練習で鍛へあげた上二十三日午後四時半藤原敎諭引率のもとに新京を出發輝しい遠征の途にのぼる

三、巡回保護者會 沿線各地に在住する同校生徒の父兄を訪ひ校長以下職員が出張してそれぞれ父兄會を開き學校と父兄との連絡をはかることとなつてゐる、この試みは遠隔の地より同校に在學する生徒の家庭と職員が直接に膝を交へて話す機會がないため夏期休暇を利用して計畫されたもので新らしい試みとして喜ばれてゐる、尚各地保護者會開催日程は次の通りである十一日吉林、十二日公主嶺、十三日四平街、十五日開原、十六日奉天、十七日撫順、十八日遼陽、十九日大石橋、二十六日大連で ハルビン安奉沿線各地は未定である

四、天幕生活 七月二十五日から三十一日まで夏河家子で希望者を集めてテント生活を行ふ

五、商業實習 各會社、官廳から依賴されて生徒が商業實習を行ふ

新京中學校の 夏期休暇

中學校の夏期休暇は七月十日から八月二十日までで、行事は次の通りである 臨海聚落、七月十一日から同二十二日まで全校生徒二百名職員十三名がともに大連柳木屯海岸で海濱生活を行ふ

貰兒虐待の惡鬼！

銀行員夫婦御用

疵だらけで怖へる床下の少女

變態的な兇行ぶり

康德の聖代にしかも皇居のお膝下で中國銀行營業股長夫妻が連日連夜半ヶ年に亙つて恰も惡鬼の如く慘虐の限りを盡し、貰兒を虐待した事件が見るに見かねた隣人の投書によつて、はしなくも發覺し、犯人は首都警察廳の手で目下嚴重な取調べを受けてゐる…三日夜何處からか一通の投書が首都警察廳司法科宛舞ひ込んで來たので、開封して見ると意外にも新京中國胡同門牌第二號中國銀行營業股長范慕高（四三）同妻范林氏（二五）兩名が約半ヶ年に亙つて貰兒李柘榴（一三）を一室に監禁し、碌に食事も與へず暴行の限りを盡してゐることが發覺したもので直に係員が出張、附近の人々の話を綜合し同家を內偵の結果動かぬ證據を摑んだので四日午前十時半范股長を中國銀行より召喚引續き范氏宅を襲ふと意外にも虐待されてゐる當の柘榴は居らず妻林氏が何喰はぬ顏をしてゐるので家宅捜索の結果床下に此の世の者とも思はれぬ色は青白くやせこけて顏面には目をそむけしめるやうな燒ごての跡ざくろのやうにひらいた屁、その他全身約五十ヶ所の傷を受けた小女がふるへてゐるので直に保護を加へると同時に林氏を連行嚴重取調べの結果次の如き恐るべき犯行を自白した

加害者范氏は八年前現在の妻林氏と結婚二兒を擧げたが長女は昨年多滿鐵病院で

病死 したので淋しがつてゐたが偶々林氏の姉の子で柘榴が兩親も無く林氏の母の家で育てられてゐたので引取つて養育することになり、本年正月林氏の母が河北省△興縣よりつれて來、それ以來范氏の家で養育してゐたが、柘榴は生來心がいぢけて居り、盜癖があつて時々煙草を盜んでは喫つて居たので、その都度陋癖を矯正するために口で云つて聞かせて居たが、容易に直らぬので、棍棒で毆つてゐたが、度重なるにつれ、逃げ狂ひ泣き叫ぶ少女に鞭を當てる事が面白くなり、果ては血を見なければ承知しないといふ一種の變態性と化し、晝間は林氏がいぢめ拔き、夜は范氏が歸宅して、兩人で燒ごてや金鎚で暴行を加へて居たが、二週間前の或夜歸宅した范氏は眞夜中妻林氏と共に弱り切つた柘榴を一室に引づり出し、先づ范が柘榴の兩手を縛り上げ身動きも出來ぬ樣にして

眞赤 に燒けた直徑三分位のストーヴの火ばしを林氏が泣き叫ぶ柘榴の局部に突き刺し、遂に人事不省に陷らしめ勿論醫者には診せず、家庭で治療してゐたが、毎夜范方からもれる少女のたへ入る樣な悲痛な泣き聲に近所の者が堪へ切れず投書するに至つたものである

此の世の地獄から救ひ出された柘榴は廳員の手厚い看護にやつと蘇生した氣持で搜索股刑事室で柘榴の樣にたゞれた唇の痛さも忘れて與へられた丼とオムレツを傷いた手にかゝへながらむさぼる樣にし、食つて居たが、時々思ひ出した樣に恐ろしかつた日を思ひ浮べ「飯は全く食はせずに燒ごてや火ばしでつゝかれてばかり」と係官の方を見ながら目に淚を一杯たゝへて口走り係官の淚をそゝつて居る、尚取調べ進行と共に加害者范夫妻は昨年某方面より少女を貰ひ受け同十一月頃吉林方面に三百五十圓で賣却した事實あり餘罪ある見込みで引續き嚴重取調べ中である、一方被害者柘榴は直ちに滿鐵病院に入院させる事となつた

近所の某氏は語る

毎夜の如く身をしぼる樣な少女の泣聲を聞かされて居た近所の某は語る

柘榴さんは今年正月頃范さんの家に買はれて來た樣です、范さんは聞くところによれば中國銀行の相當いゝ地位で月給も百五六十圓位とつて居るとかで子供が一人あつてその子守りに柘榴さんを傭つたのでせうが別に惡い事をする樣な人だとは思ひませんでした、近頃よく范さんの家の中から眞夜中消え入る樣な『ひい！』と言ふ女の聲がするので何だらうと怪しんで居ましたがまさかあんな事になつて居ようとは思ひませんでした

新鮮な魚菜を

朝の食膳に盛れる

ダイヤ改正で四十一列車繰上

今回のダイヤ改正中貨物第四十一列車の新京到着時刻は直ちに市民の食膳に響くので相當期待されてゐる、從來の第四十一列車は午前六時四十分着であつたが、七時着旅客急行列車との關係があり往々にして一時間も二時間も延着することがあつたので今度の改正では六時四十分着第四十一列車を一時間位切り上げて五時四十分ごろ新京に到着するやうに改正する意向

五日（木曜）新京放送プログラム

前六、〇〇 ラヂオ体操（東京より）
同八、〇五 經濟市況（東京より）
同一〇、三〇 ニユース（東京より）
同一〇、四〇 經濟市況（東京より）
同一〇、五九 時報 レコード（滿語）
同一一、三〇 ニユース（滿語）
同一一、四〇 ニユース 經濟市況（東京より）
後〇、〇五 經濟市況（奉天より日滿語）
同〇、三〇 演藝 レコード（滿語）
同一、〇〇 演藝（滿語）
同二、五〇 經濟市況 ニユース（東京より）
同三、二〇 ニユース（日滿語）
同三、三〇 經濟市況（奉天より日滿語）
同四、三〇 ニユース（滿語）
同四、四〇 ニユース（鮮語）
同四、五〇 ニユース（英語）
同五、〇〇 子供の時間（東京より）
同五、三〇 時事解說（滿語） 少年講談 奈良島知堂
同五、五五 氣象豫報 プロ豫告（滿語）
同六、〇〇 ニユース（東京より）
同六、二〇 滿語講座 講師 高宮盛逸
同六、四〇 日語講座 講師 植松金枝
同七、〇〇 新內（東京より） 碁太平記白石噺揚屋の段下 淨瑠璃 富士松喜遊 三味線 富士松陸摩 上調子 富士松遊供の助
同七、二五 講談（東京より）西尾麟慶
同七、五〇 連續ラヂオドラマ（東京より） 巖窟王（第五回）（黑岩淚香譯 JOAK文藝部編輯） 市川猿之助 市川八百藏 外 男女優
同八、三〇 時報 ニユース（東京より）
同八、四五 ニユース プロ予告
同九、〇〇 氣象予報 演藝（滿語） 艶春院喜子 引續きニユース（滿語）

第二師團諸部隊 論功行賞發表

（夕刊の續き）

功七旭八歩伍長 杉本慶治
同 後藤幸雄
同 鈴木善次
同 七同 安達要作
同 八同 太田恒雄
同 郷右近智里
同 平井富雄
同 吉田惣治
同 兵上等兵 遠藤益五郎
同 永谷清光
同 歩伍長 森田健治
同 上看兵 木下勉
功四旭日綬章歩少佐 名倉栞
功五旭四歩大尉 宮崎忠雄
功五旭四歩少佐 安部美雄
同 六歩中尉 星光久
同 横澤三郎
功四旭日小綬章歩中佐 藤井勇
功五旭四歩大尉 山本良次
功五旭五歩大尉 矢野光二
同 松平紹光
同 六歩中尉 星半三郎
同 双光旭日章歩中尉 渡邊久
同 旭五歩大尉 鈴木忠
同 六歩中尉 小元久米治
功四旭日小綬章 三軍正
功六旭六歩特曹 上田茂
功七旭七歩軍曹 二瓶義正
同 大柿勉
同 樋口五郎
同 本多直藏
同 渡部勉
同 旭六歩特曹 井堀秉義
同 七歩曹長 山田光秋
同 佐々木丑藏
同 福地辰島
同 米田榮
功七旭七歩曹長 川村保治

同 伍長 窪井德藏
同 七歩伍長 山抜總
同 中山春治
同 渡部忠雄
同 八歩上等兵 長澤潔
同 高橋彦四郎
同 七元歩伍長 加藤武雄
同 八歩上等兵 有賀利明
同 七歩伍長 鈴木喜富
同 八歩上等兵 渡邊武雄
同 七歩伍長 關根清
同 遠藤重男
同 川瀨七郎
同 八歩上等兵 矢吹繁治
同 七歩伍長 佐藤光春
同 八三計手 渡部利雄
同 七歩伍長 小西貞治
功七旭八歩上等兵 永田熊尾
同 星重吉
同 七歩伍長 高橋廣治
同 八歩上等兵 須藤竹馬
同 七歩伍長 川島廣政
同 八歩上等兵 馬場靖
同 大樂力男
同 橋本初吉
同 高野覺
同 七歩伍長 山野邊清
同 八歩伍長 池山武末
同 橋本平男
同 五十嵐義男
同 安齋長一
同 瀧出信雄
同 佐藤田四郎
同 菅野上
同 八歩一等兵 梅津秀雄
功七旭八歩上等兵 明石人丸
同 一等兵 増田登
功三旭日重光章少將 天野六郎
功五旭六歩中尉 中澤勝三郎
功四旭日小章歩少佐 石川隆吉
功五旭六歩中尉 山崎永吉
功四旭日小綬章歩少佐 小園江邦雄

同 八歩上等兵 石田清八
同 田村三代治
同 藤山一藤吉
同 志田一夫
同 村越久二郎
同 七歩伍長 今井盛一
同 八歩上等兵 大倉寅次
同 七歩伍長 深澤乙藏
同 山邊帝司
同 八歩上等兵 齋藤耕次
同 七歩伍長 鈴木寅次
同 吉原三治
同 星野敏雄
功七旭八歩上等兵 青木松五郎
同 小林喜八郎
同 七歩伍長 横田洋一
同 八歩上等兵 兒玉住次郎
同 星野
同 小林
同 西川順作
同 齋藤一男
同 山崎庚二郎
同 市川慶次
同 佐野文質
同 七歩伍長 龜井太三郎
同 八歩上等兵 杉島勝井
同 金子作太郎
同 金安又一
同 七歩伍長 西澤秋藏
同 鈴木壽吉
同 星野平作
功七旭八歩伍長 羽田忠七郎
同 七歩伍長 高橋丑三
同 八歩上等兵 坂爪梅吉
同 七歩伍長 田中威一
同 横木政太郎
同 八歩上等兵 關谷一二
功四旭日中綬章少將 坪井善明
同 小綬章歩中佐 柱朝彦
功五旭五歩大尉 加藤道雄

新京 風月庵 夏のお菓子 錦玉泡雪 葛饅頭 調布 スイートポテト アイスクリーム 新京吉野町一丁目 電話三一一七番

双光旭日章歩中尉 石松
功六旭日小綬章歩大尉 高橋純一
同 水谷
同 歩中尉 高澤誠一
同 旭日小綬章歩大尉 佐治直影
同 光旭日章歩大尉 山口京次
同 旭五一軍醫
同 旭七元歩軍曹 井美猛
同 單光旭日章歩特曹 山崎昌治
功七單光旭日章歩特曹 片伊作
同 大橋憲司
同 少尉 渡邊波平
同 池出萬作
同 七旭七歩曹長 東條省三
同 軍曹 柳信治
同 曹長 宮川久司
同 軍曹 岡村卯吉
同 水口謙治
同 曹長 森野理吉
同 川島育二郎
同 軍曹 宮澤春正
同 樋口秀治
同 大門孫一
同 小名篤男
同 特曹 渡邊亮
同 軍曹 金澤常良
同 伍長 關與作
同 七旭八歩上等兵 後藤一範
同 阿部易吉
同 七歩伍長 五島英一
同 八歩元上等兵 山岸新
同 七歩伍長 相羽鋼治
同 八歩伍長 薄邊勝治
同 七歩伍長 小野塚三郎
同 八歩上等兵 古澤吾作
同 小池三郎
同 鐵市巧
同 七歩伍長 高野武義
同 牧岡信儀
同 安部伊一

同 八歩上等兵 木南庄藏
同 伊藤銀治郎
同 佐藤一太郎
同 吉田辰一
同 阿達修三
同 竹之内金治
同 七歩伍長 池田登
同 森山美久
同 伊藤廣茂
同 八歩一等兵 高澤春吉
同 七歩伍長 田邊茂
同 七歩上等兵 石坂義則
同 八歩上等兵 八木定次
同 七歩伍長 寺崎熊治
同 八歩上等兵 久保田好治
同 七歩伍長 遠藤榮七
同 八歩上等兵 中島直正
同 布澤鶴吉
同 八歩一等兵 今井高德
同 八歩上等兵 早川重藏
同 八歩伍長 渡邊幸吉
功四旭日中綬章騎大佐 若松晴司
功五旭四騎少佐 橋本通義
同 六騎大尉 相澤卓司
同 四騎大尉 小林武夫
同 五騎中尉 木村德三郎
功六旭六騎特曹 早坂四郎
同 七騎軍曹 佐藤嘉勝
同 關澤豐治
同 菅原義夫
同 七騎伍長 佐藤兵次
同 八騎伍長 渡邊信太郎

同 七騎伍長 菅近勉
同 八騎上等兵 八巻菊男
同 酒匂勘十郎
同 佐藤耕平
同 千葉嵐一
同 七騎伍長 五十嵐春吉
功四旭日中綬章砲大佐 大谷清鷹
功四旭日小綬章砲少尉 石川勝藏
功五旭五砲大尉 伊藤勝
同 四砲中佐 小池國英
功五旭四砲少佐 成瀨熏
功五旭六砲中尉 知久入萬
同 佐野武
功七單光旭日章砲少尉 杉原忠治
功七旭六砲少尉 荒井佐四郎
同 七砲軍曹 佐伯司
同 七砲伍長 笠原西吉
同 七砲軍曹 山口嘉藏
同 六砲特曹 高島金治郎
同 七砲曹長 高橋傳右衛門
同 七砲軍曹 山岸久輔
同 大宮恒雄
功七單光旭日章砲少尉 高井安意
同 七砲軍曹 中島久
同 七砲曹長 宍戸喜代松
同 七砲伍長 長谷川庄八
同 鈴木鶴夫
同 八砲伍長 佐藤直吉
同 七砲伍長 下田榮七
同 八砲上等兵 害柳一
同 七砲伍長 丹治秋吉
同 八砲伍長 千葉友治郎
同 七砲軍曹 角田三郎
同 八砲上等兵 中原利七
同 七砲伍長 五十嵐一郎
同 山本清次郎
同 長谷川俊夫
同 八砲伍長 中野芳郎
同 八砲上等兵 阿部德治
同 八砲伍長 佐々木榮一
同 八元砲伍長 若月二次郎
同 八砲上等兵
功六旭八砲伍長 白幡衛
功七旭八砲伍長 宮嶋久治
同 八砲上等兵 飯田貫
同 門馬一男
同 佐藤守正
同 八砲伍長 渡邊太三郎
同 八砲上等兵 引地政
同 熊倉忠四郎
同 八砲伍長 持地市之助
同 三浦忠七
同 八砲上等兵 太田重一
功五旭六工中尉 大村靜雄
功七旭七工軍曹 本間龍雄
同 坪木七太郎
同 七工伍長 山田重雄
同 石垣友雄
同 淺野平重郎
同 八工伍長 遠山英吉
同 七工伍長 若生松治

忠靈塔寄附者 （三）

新京日日新聞社扱

◎三百四十八圓新京第二區町内會▲二十圓内譯五圓藤市之助▲二圓澁谷貞雄▼二圓野久雄英之助▼二圓後藤數和吉▼三圓滿蒙旅館▼三圓近澤洋行▼二圓小畑武平▼五十圓馬場タケ▼十圓永島高一▼二圓田中太平公司▼二圓金井根▼二圓滿洲運送▼二圓平本貞三郎▼三圓奉天醬園▼二圓池尻臘珠▼二圓宮崎理平▼二圓内藤廣吉▼二圓白濱清八▼三十圓北原廣二▼五圓大阪橋本組新京出張所▼五圓康生醫院▼二圓塚本ハツ▼二圓竹中一技▼二圓山本ハツ▼二圓菊谷作兵衛▼一圓牧初太郎▼一圓出塚忠五郎▼一圓小財德藏▼二圓仲谷耀男▼一圓西澤鹿太郎▼二圓島千代吉▼三圓安岡勝美▼三圓松益太郎▼一圓米田ユキ▼十圓藤田與市郎▼三圓大槻倫樹造▼二圓川上謹一▼二圓野田丹朝次郎▼五圓大谷政吉▼三圓岸本官沼直人▼五圓相原楚一▼二圓一圓山崎久吉▼五圓本城德太郎▼金信託會社▼五圓梶原末吉▼五圓柳澤喜重▼三圓高井源太郎▼三圓長春貯太郎▼二圓西村ムメ▼十圓伊井明治郎▼二圓原田武夫▼二圓土ーゼン▼五圓ゴールチスユデス▼三圓オギヒトゴールス▼二圓ミキゴールデス▼五圓野崎清人▼二圓岡本茂義▼一圓三原是▼五圓野中千代松次郎▼二圓大和號出張所▼一圓平郎▼十圓上村儀七郎▼二圓増田孝吉▼三圓穴見善次原明倫▼二圓鈴木太三郎▼三圓上予圓青木若太郎▼三圓山中イシ▼十圓渡邊才吉▼三圓山本隆司▼十圓梅屋旅館▼二圓光永英雄▼五圓竹島印刷所▼十圓甘泉堂▼五圓赤玉カフェー▼十圓山崎壽六▼二圓服部貞夫▼十圓室町一ノ九井上意啓▼一圓宛永樂町三ノ一日高宏龍山崎内藏之助▼

小計三百六十圓

累計 九千七百十二圓三十二錢

鮮魚小賣相場

品名	値	品名	値
活鯛	八五	氷鯛	四〇
チヌ鯛	四三	小鯛	六〇
ニベ	二三	メジ	四〇
ヒラス	四〇	サハラ	二六
スヽキ	二三	サバ	一一
カレイ	九	ヒラメ	二一
コチ	一二	コノシロ	三六
キス	三五	マナカツ	四〇
タチウオ	一三	ハゲ	一三
シタ	一五	ウナギ	一〇〇
アユ	一〇	グチ	一〇
カナガシラ	二六	ホーボ	八

日本の聖女

（上瀬川篇）

生田葵

一四六　蹴上茶屋の亂鬪（九）

『拙者事を好むにあらねど、之れ等の人々が、酔ふた上に、拙者の連れて參りし其處なる男の女房へ無理難題、ついかうしたことに立到りましたので御座る』

『やあ、之は古谷助右衛門殿ではござらぬか』

數之丞の手が緩んだので、身體を動かし起ち上らうとする、古谷の顏を見ると、簗川星巖は吃驚した。

『簗川氏には古谷殿は御存じでござりまするか』

『時折拙者の宅へおとづれて來られる御人、古谷氏ちと御酒興が過ぎましたな』

起上つた古谷は無念さうに、下唇を嚙み、まだ刀を鞘に納めやうとはしなかつた。

『聞けばらちもない喧嘩沙汰、刀を納められい。拙者此場をお預かり申したい所存でござる』

星巖が少しは古谷に花を持たした言葉を述べると、仲裁は時に取つての氏神、それを機會にまだ見榮えるを張る不精不精さをみせて古谷は刀を鞘に納めた、額破られた傷から血が流れ出るので、星巖は懷紙を取出して、古谷に渡してやつた、古谷はそれで傷を押へながら、森村をにらみつけて居た。

『森村氏、貴殿は御自分の御席へ此場の始末を附けし上、なんとか御挨拶申す』

簗川はさう云つて數之丞を、小亭の以前の席へとかへらした

『やあ此處に御座して居らるゝのは、平林氏に、茶谷氏、茶屋の亭主、亭主はをらぬか、水を持つてこい』聲高く呼んだ。

一體何うなることかと、表通りの群集の側でふるへてゐた亭主は簗川の此こえで、やつとよみがへつたやうに女中を指し圖して手桶の水を持ち出させ、それを自身でさげて來た。

少しは醫術の心得ある簗川は、腰の印籠を抜いて、氣附藥を取出し、それを二人の口に含ませた上、水を流し込み、背中をとんくと叩くと、二人共に呼吸をふき返した。酔ひ切つて事件を起す因となつた淺倉武右衛門も、鼻の下を木剱で打たて傷附いた小室左司馬も、もう刀を鞘に納めてゐる。

さんざんな敗北に五人共に飲んだ酒は醒め悄々とした恥ぢ入つた容子で、簗川が勸めるまゝに座敷の席へと歸つて行つた。

『小室氏には江戸へ御發足なさるゝやうに承つてをりましたが』

星巖は鼻の下に傷を受けてゐる左司馬へ話しかけていつた。左司馬も星巖とは時々往來してゐるのであつた。

『然ればで御座る。今日只今發足致さんと、之まで參り、別盃を汲みかはしてゐる折り、拙者からかうしたことが持上つたのでござる』

面目なげに答へた。

『森村氏の話では、何か供人の女房にお戯れありしより起りしやうに申されたれど、拙者の察するところによれば、對手は兼々評判の兄かたかつの如く忌み嫌ひをらるゝ剛論者の森村氏、そんなことを機會に只今の斬り合になりしと存ぜらるるが如何で御座る』

『お察しの通りの仕儀、不覺を取りしは拙者等の不調法、恥入り申す』古谷が述べた。

『いやく。如何に正義の氣は滿ちてゐるにしても、酒によつてゐては、劍もいふことを聞きませぬ五人の方々開國論者故に打ち果さんとせしなぞと申せば、後に意趣が殘りて、拙者仲裁のお拔ひ出來ませぬ故、やはり森村氏の云はるゝ通り、酒興の上にて小者の女房に戯れせられしが發端、事すみし上は一切を水に流して意趣は殘らぬとしていたゞきたいものでござる』

三ツ矢サイダー
ユニオンビール
新京總代理店
滿洲醬油合資會社
新京二笠町二丁目
電話
番
感
そのまゝ
ラッキーストッキング
サクッ
質で愛の新
現代人の要求に
防毒に症制に
日本ハナミ五製造所
代理店 大連 日賣支店
荷造運搬
便利低廉
一般荷造
引越
帰国
諸機械
荷受発送手続
荷造材料販売
御報参上
専門店
新京蓬萊町二丁目一四
信和洋行運搬部
電話四七三七番
靴は金城で……
御選擇を
夏は来る
白靴時代
アジアの高級白靴
千代田の実用品
各種揃へました……
金城靴店
電話二九五二番
今夏流行
新柄
豐富
新京日本橋通
みしまや呉服店
電話二五三五番
食料品と
雜貨の御用命は!!
市場内
日華洋行へ
配達式
飛行は
電話三八二五
從來手不足の爲サービスに遺憾の点がありましたが今回本支店共増員陣容も整ひました
是非御來店の程を!!
和洋髪
美顏術
美爪術
黑猫美粧院
本店東一條通一三 電話三四四四番
支店永樂町一丁目九 電話二三二四番呼出
本店
師匠 青木峰子
日本髪 青木繁子
洋髪 蘆刈定子
玉子 春代
かほるたきの
支店
日本髪 吉田日榮加
洋髪 宮崎鶴枝
時子
□どうぞよろしく……□
硝子
鐵材
塗料
其他土木建築諸材料商
新京ダイヤ街老松町
天野商店
電話長二九六七番 二九二五番
銘酒黒松白鹿
米と酒の御用は
専門店西村へ
新入荷
清酒菊正宗 特撰スシ米
キリンビール サツポロビール
三ツ矢サイダー 最上醬油罐詰
西村洋行
帝國生命保險代理店
清酒菊正宗さはのつる
電話二一〇一番
於内鮮滿各地出品共同主催第二回全鮮菓子品評會
一等入賞名譽金牌授領
新京名物
國都之華
南嶺勇士煎餅
新京吉野町二丁目
峰長春堂
電話本店三一九一番 支店二八四二番
白米
清酒
醬油
木炭
新京大和通四七
今田商店
電話二九三三番
御家庭用
強力殺虫液
KILLING
キリメツ
カモ井のキリメツ
眞の御家庭に無くてはならぬ
滿洲代理店
(日本橋通)福田支店
電話二九八〇番
鐵鋼瓦斯管
鉛管水道用品
機械工具
電氣冷藏機
新京日本橋通八二
合名會社 原田組出張所
電話三七五七〇
御一報次第商報及型録呈上
本店大連
黒・灰・チョコレート
FUSI
全密閉電動機付
コンデンサー付
好良率力
音無對絶
扇氣電
級高
士富
富士電氣製造株式會社
滿洲總代理店
古河電氣工業株式會社
新京・奉天・大連
内科
小兒科
新設 産科 外科 花柳病科
診療毎日
往診
入院随時
福島醫院
新京室町二丁目公學堂前
電話三八五八番
産婆 大野にわ子